

男女別	尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六	高一	高二	計
男	四四	三七	二九	四二	三六	三〇	三〇	一六	二六四
女	三一	三四	四三	二二	三五	二六	三〇	一七	二三八

職業別戸數

種類	専業	兼業	副業
農	七〇	二四七	—
商	—	四八	—
林	—	一二〇	—
工	—	—	五五
交通業	—	—	—
公務及自由業	—	—	—
其他	—	六五	—
計	—	—	—

主要生産物

種類	生産額又ハ價格	種類	生産額又ハ價格
米	四、一九八石	麥	一、九一四石
繭	二、一〇五貫	林産物	四〇、三五〇圓
柑橋	一二四、二八〇貫	棕枙加工品	二〇、七〇〇圓
凍豆腐	四六五、〇〇〇圓		
竹細工	一七、五〇〇圓		

第二章 校勢一斑

第一節 沿革

明治四十二年四月十五日ノ創立ニシテ山田尋常高等小學校ニ附設シ山田農業補習學校ト稱ス

明治四十四年四月ヨリ吉原ヘ分教場ヲ置キシガ大正三年度限り之ヲ廢ス大正五年一月十五日學區内戸主會ニ於テ小學校卒業後他ニ出デザル限リハ男子ハ滿二十歳迄女子ハ卒業後二ケ年ハ必ズ補習學校ヘ就學セシムベキ義務ヲ青年子女ヲモツ父兄或ハ雇主ガ負フベキ規約ヲ決議ス。コノ決議ハ當補習學校ニ於テ没スベカラザル事項ニシテ萎微振ハザリシ本校モ

コレニ依リテ頭首ヲ擡ゲ出ヅルニ至レリ。尙該規約ノ勵行ヲ期スル爲數名ノ商議員ヲ囑託セリ

大正五年四月最モ難点トセル生徒ノ就學ハ學區内ノ規約ニヨリテ其成績良好トナリシヲ以テ之ヲ機トシ内容方面ニ向ツテ改善ヲ加フルコトニ、カヲ注ギ第一着ニ學則ヲ改正シ修業年限ヲ尋常小學卒業者ハ八ヶ年高等小學卒業ハ六ヶ年トシ之ヲ豫科、本科、專修科、壯丁科ノ各分科ニ分チ豫科、本科ニハ女子ヲモ收容セリ

大正八年四月小學校ニ附設セル裁縫學校ヲ廢シ補習學校ニ合併シ山田實業補習學校ト改稱學則ニ改正ヲ加ヘ男子部女子部ニ分チ内容ニ改善ヲ加ヘ家事裁縫ノ二科目ヲ加設セリ。學則改正ト共ニ學則施行ニ對スル細則ヲ制定シ補習教育諸作用ノ運用ニ便シ尙各教科ニ於ケル教授要旨、教材ノ選擇、排列、教授上ノ注意ヲ制定ス

大正十年七月文部省令實業補習學校規程ニヨリ學則ヲ改正シ山田農業補習學校ト改稱公民科、理科ノ二科目ヲ加設セリ。同時ニ柏原農業補習學校ト合併シ就學區域ヲ山田村一圓トシ、生徒ハ從前ノ通り兩校舍ニ收容ス。柏原農業補習學校ハ明治三十九年十一月一日ノ開

校ニシテ明治四十五年各大字ニ分教場ヲ設ケ出張教授ヲナセシガ大正四年四月大字野ヲ除ク外分教場ヲ廢ス。大正五年四月ニ至リ内容形式ヲ改造シ新ニ學則ヲ制定シ組織ヲ改メタリ。其後ニ於ケル學則ノ變更、名稱ノ改正、教科目ノ加除等略山田農業補習學校ト同ジ徑路ヲ經タリ

大正十一年六月本科一年甲部ヲ新設セリ

大正十一年十一月二十八日文部大臣ヨリ施設經營宜シキニ適ヒ成績優良ナル廉ニヨリ選奨セラル

第二節 職員

職名	担任學科	專任兼任別	任命年月	氏名
助教諭兼校長	修身、公民	兼任	大正十二年三月	堀内彌平治
助教諭	公民、國語、農業	同	同	前山亮太郎
同	修身、公民、國語	同	大正二年四月	奥正治
同	國語、數學	同	大正三年五月	田中彌壽憲

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
農	國	數	數	家	國	裁	家	國	公	理	理	理	理
業	語	學、農	學	事	語、數	縫	事裁	語、數	民、國	科、國	科、國	科、國	科、國
		業			學		縫	學	語、數	語、數	語、數	語、數	語、數
									業	業	業	業	業
專	同	同	同	同	兼	兼	專	同	同	同	同	同	同
任					任	任	任						
大正十二年九月	大正十三年三月	大正十三年五月	大正十三年九月	大正十一年五月	大正六年五月	大正十三年十月	大正十二年四月	同	大正十三年三月	大正十二年三月	大正十二年三月	大正十二年三月	大正十二年三月
中村彌之助	筒井且男	森本茂三	平田廣儀	柏原繁子	松本義雄	谷口知枝	楠井こま	田村敏郎	北村靈治	井上武雄	井上武雄	井上武雄	井上武雄

第三節 生徒

科及學年別	男	女	計	就學者	不就學者	就學率
豫科第一學年	六	二	八	八	〇	一〇〇%

數	徒		計		出席步合 (最近五ヶ月間平均)	出席百分比
	同	同	男	女		
同 第二學年	四	九	一三	九六	七	九、三二〇
本科 第一學年	二八	二〇	四八	八三	七	九二、二二三
同 第二學年	七	一七	二四	一七九	一四	九二、七二二
同 第三學年	一二	一四	二六			
同 第四學年	一七	一三	三〇			
研究科 第一學年	二	三	五			
同 第二學年	八	五	一三			
同 第三學年	一二	一	一二	女		七五、六
合計	九六	八三	一七九			

第四節 經費

項	豫算額	種目	豫算額
一、給料	一、九五〇〇〇	一、教員給料	一、九五〇〇〇
二、雜給	一七、四〇〇	一、旅費	六〇〇〇〇
		二、教員恩給基金	一五、四〇〇

三、需用費	三八八円〇〇	三、賞與	七一、〇〇
		四、生徒獎勵費	二五、〇〇
		一、備品費	一二二、〇〇
		二、消耗品費	一二五、〇〇
		三、印刷費	五五、〇〇
		四、實習地費	二五、〇〇
		五、点燈費	一〇八、〇〇
		六、雜費	三、〇〇
四、圖書館費	二〇〇、〇〇	一、圖書購入費	二〇〇、〇〇
合計	二、七五九円〇〇		

第三章 本校教育ノ方針

(一) 本校教育ノ目的

實業又ハ家庭生活ニ必須ナル智識技能ヲ授クルト共ニ健全ナル國民善良ナル公民タルベキ素質ヲ養ヒ併セテ普通教育ノ補習ヲナスヲ以テ目的トス

(二) 方針

一、生活智識技能ノ附與

農村トシテハ勿論農業的ノ附與必要ニシテ、尙女子ノ爲ニ裁縫並ニ家事的智識ノ附與必要ナリ。殊ニ農業ハ各種職業中改良モ少ク進歩モ遅々タルハ、要スルニ農業的智識ノ淺薄ニ因スルヲ以テ將來農村ヲ背負ツテ立ツベキ者ニ對シ、充分ナル農業的智識ヲ授ケントス

二、公民、臣民トシテノ精神体得

所謂公民教育ニシテ自治体ニ於ケル公民國家ノ臣民トシテノ思想感情意志ヲ充分ニ陶冶シ諸種ノ徳性勤儉信ノ實踐躬行奮闘自研ノ精神活動ヲ体得シ國民活動ノ一部ニ參加シ己ガ最善ヲ尽シ益々有爲ニシテ實力アル中堅青年子女ヲ養成セントス

三、普通教育ノ補習ヲナシ小學教育ノ完成ヲ期スルコト

小學時代ニ築成セル道徳教育國民教育ノ基礎ノ上ニ立チ、更ニ補習教育ニ於テ其内容ヲ擴充シ健全ニ且強固ニセントス

四、体育並ニ氣育

農村ニ迄奢侈逸樂ノ風ノ襲來スル現代ニ處シ体育的行爲ニヨリ強烈ナル元氣ヲ養ヒ質實剛健ナル氣風ヲ養成セントス

要スルニ小校卒業後モ有意的ニ教育ヲ繼續シ小學教育ヲ基礎トシテ練成シ獨立ノ生活ヲ營ミ一家ヲ與ヘ經營シ進ンデ自治体ノ住民將タ國家ノ一員トシテ吾國特有ノ國体美ヲ体認シテ過タズ所謂健全ナル國民ヲ養成スルヲ以テ大主眼トス

第四章 學則及細則

本校ノ孤々ノ聲ヲ舉ゲシハ、實ニ明治四十二年四月十五日其ノ當時ノ學則ハ時代ノ進運ト共ニ大正五年三月、大正八年四月、大正十年七月、大正十一年六月、ノ數次ニ涉リ漸次變更改善ヲ加ヘ以テ現在ニ至ル

第一節 山田農業補習學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ハ實業補習學校規程ニヨリ實業又ハ家庭生活ニ必須ナル智識技能ヲ授クルト

共ニ德性ヲ涵養シ健全ナル國民善良ナル公民タルベキ素質ヲ養ヒ併セテ普通教育ノ補習ヲナスヲ以テ目的トス

第二條 本校ハ伊都郡山田農業補習學校ト稱シ山田村尋常高等小學校ニ併置ス

第三條 本校ハ男子部女子部ニ分チ各部ニ豫科本科研究科ヲ置ク

第二章 修業年限及教授期間並ニ每週教授時數

第四條 各分科ニ於ケル修業年限左ノ如シ

男女別	豫科	本科	研究科
男子部	二ケ年	四ケ年	
女子部	二ケ年	四ケ年	

本科一年ヲ甲部、乙部ニ分ツ

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 教授期間並ニ長期休業ヲ左ノ通り定ム

第一學期 自四月一日 至八月卅一日

第二學期 自九月一日 至翌年一月六日
 第三學期 自一月七日 至三月卅一日
 養蠶田植休業 自五月二十一日 至六月二十日
 夏期休業 自八月一日 至八月三十一日
 收穫休業 自十一月一日 至十一月三十日
 冬期休業 自十二月廿六日 至翌年一月六日
 學年末休業 自三月二十六日 至四月六日

但 生徒職業ノ情况ヲ斟酌シ十二月一日ヨリ二月末迄臨時休業スルコトアルヘシ

第七條 男子部教授時數及時期左ノ如シ

科	科別	授每時週數	教授時期
豫科	本科一年甲部	九、	一週三夜間
	本科一年乙部	一八、	一週三日
	本科二年乙部	九	一週三夜間
研究科	同二、三、四年	六	一週二夜間

第八條 女子部教授時數ハ每週三十六時トシスヘテ晝間教授トス

第九條 教授終始ノ時刻ハ季節ニ應シ學校長之ヲ定ム

第十條 本科一年甲部ヲ修業セル者ハ本科二年ニ編入ス

第十一條 長期休業中實習指導ノ外教育召集ヲ行ヒ講習會講話會ヲ開クモノトス

第三章 教科目及課程並ニ每週教授時數

第十二條 男子部ノ教科目及其ノ課程並ニ每週教授時數左ノ如シ

教科目	學年		科	本科一年甲部及一年乙、二年		本科三、四年		研究科
	修身及國民	國語		甲四	乙二	甲三	乙二	
修身及國民	人倫道德ノ要旨		一	同	上	同	上	同上
國語	講讀、作文 習字		三	同	上	同	上	同上
數學	四則、分數、比例 歩合算、珠算		二	同	上	甲三 乙二	實際的經濟問題 ヲ主トシタル數	同上
理科	博物、物理化學 ノ一般		一			甲八		

計	農業大意	二	稻作、麥作、養蠶、土壤、肥料	乙三	蔬菜、果樹	三	作物、汎論、林業、農業、經濟	二
		九		甲八 乙九		九		六

第十三條 女子部ノ教科目及其課程並ニ每週教授時數左ノ如シ

教科目	學年	豫科		本科		研究科	
		一學部	二學部	三、四年	研究科		
修身及公民	一	人倫道德ノ要旨 作法	國民ノ道德根柢	同上特ニ婦人ニ 必要ナル公民生 活心得	同上	一	
國語	二	講讀、作文 習字	同上	同上	同上	一	
數學	二	四則、分數、比例 歩合算、珠算	同上	同上特ニ婦人ニ 必要ナル經濟問 題	同上	一	
家事	一	家事ノ大要	住宅、衣服、飲 食物	一家ノ管理經濟 看病病養○育兒 教育	同上	三	
裁縫	一	普通衣服ノ裁方 縫方、繕方	同上	同上	同上	二	
農業	一	農業大意	稻作、麥作、養蠶	蔬菜、果樹、病 害、虫害	同上	二	
計		八	三六	三六		三六	三六

但豫科ノ裁縫二十八時間ハ隨意科トス。以上ノ外隨意科トシテ生花教授ヲナス

第四章 入學者ノ資格及入退學

第十四條 各分科生徒ノ入學資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

豫科 尋常小學校卒業者又ハ之ニ準スヘキ者

本科 高等小學校卒業者又ハ之ニ準スヘキ者及本校豫科卒業者

研究科 本校本科卒業者又ハ之ニ準スヘキ者

第十五條 本校ニ入學セントスル者ニハ保護者ヨリ左ノ誓約書ヲ差出サシム

何某儀今般御校ヘ入學致サセ候以上ハ戶主會ノ規約ニ基キ本村ニ在住スル限り義務終了迄ハ退學等致サセ間數此段誓約候也

年 月 日 保護者 氏 名 印

伊都郡山田農業補習學校長殿

第十六條 本校生徒ニシテ退學セントスル者ニハ其ノ理由ヲ具シ口頭又ハ書面ヲ以テ願出

テシム

山田農業補習學校

第五章 授業料

第十七條 授業料ハ之ヲ徴收セス

第六章 認定

第十八條 學業ノ成績操行及出席日數ヲ考查シテ終了又ハ卒業ト認メタル者ニハ三月末ニ於テ左式ノ証書ヲ授ス

一、卒業者ニ授與スルモノ

卒業証書

第 號

氏 名

生 年 月 日

本校本科（豫科）（研究科）修業月限 年ノ課程ヲ卒業センコトヲ證ス

年 月 日

伊都郡山田農業補習學校長 氏 名

校長印

二、修業者ニ授與スルモノ

修業證書

校印

氏 名

生 年 月 日

本校本科（豫科）（研究科）第 學年ノ課程ヲ修養センコトヲ證ス

年 月 日

伊都郡山田農業補習學校長 氏 名

校長印

第七章 賞 罰

第十九條 本校生徒ニシテ他ノ模範トナスニ足ル者ニハ賞狀又ハ賞品ヲ授與シ之ヲ旌表ス

第二十條 性行不良ナル者ニ對シテハ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

第八章 附 則

第二十一條 本學則施行ニ關シ必要ナル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定ム

第二節 山田農業補習學校細則

第一章 綱 領

第一條 本校學則第一條ノ目的ヲ達スル爲訓育教授体育ノ方針ヲ左ノ通り定ム

一、訓 育

山田農業補習學校

- 一、全生活ノ源泉タル實質勤勉ノ氣風養成ニ努ムルコト
- 二、公民生活ノ要諦トシテ自治協同ノ眞精神ヲ体得セシムルコト
- 三、國家思想ノ根本ヲ確立セシムル爲國民精神ノ涵養ニ努ムルコト
- 四、特ニ女子ニアリテハ溫順、清廉、恭敬ノ諸德養成ニ注意スルコト
- 五、訓育ハ教師ノ人格ヲ經トシ補習教育諸作用ヲ緯トシ以テ徹底ヲ期スルコト

二、教 授

- 一、教授ハ實際的郷土的ナルヲ旨トシ生徒ノ日常生活ニ密接ナル交渉アラシムルコト
- 二、教授ハ價値アル教材興味アル教材ヲ提供スルコトニ留意シ生徒ノ學習的興味ヲ惹起スルコトニ努ムルコト
- 三、教授ハ指導啓發ヲ主トシ生徒ノ自發活動ヲ獎勵シ以テ研究的態度ノ養成ニ努ムルコト
- 四、教授ノ効果ヲ大ナラシムル爲實習課題等ノ法ニヨリ實地應用工夫ノ途ヲ講スルコト
- 五、屢々生徒ノ成績ヲ考察シ其結果ヲ顧慮シ常ニ教授方法ニ努メンコトヲ要ス

三、躰 育

- 一、國民体育ノ向上ニ資スル爲各種運動ノ獎勵ニ努ムルコト
- 二、氣育ニ留意シ實質剛健ノ氣風養成ニ努ムルコト
- 三、衛生思想ヲ養成シ全身ノ健康ヲ保護増進スルコトニ努ムルコト
- 第二條 各分科ニ於ケル各科教授ノ要旨教授上ノ注意等ニ關スル教授要綱ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 本校職員ハ奮闘的努力ト忍耐トヲ信條トシ常ニ教材ノ研究及實際的智識ノ修養ニ努ムヘキモノトス

第二章 就學及出席

- 第四條 本村ニ居住スル者ハ戶主會ノ決議ニ基キ他校ニ在學セザル限ハ小學校卒業後男子ハ滿二十歳迄女子ハ十八歳迄本校ニ就學スル義務ヲ有スルモノトス
- 但中等學校ヲ卒業シタル者ハ此ノ限ニ非ス

- 第五條 校長ハ毎年二月末日迄ニ小學校卒業兒童ニツキ實業補習教育ヲ受クヘキ者ヲ調査シ其氏名ヲ村長ニ報告スルモノトス

第六條 校長ハ補習教育學齡取調簿ヲ調製シ毎年四月左記各項ヲ取調記入スルコト

一、補習學校ニ就學セル者ニツキテハ其ノ學年

一、他校ニ入學セル者ハ其學校名及其ノ學年

一、右何レニモ入學セサル者ハ其ノ理由

第七條 本校經營上ノ商議生徒出席ノ獎勵ヲ圖ル爲若干ノ商議員ヲ囑託ス

第八條 校長ハ各商議員ニ其ノ部内生徒ノ氏名及學年ヲ每學年始ニ通知ス

第九條 欠席セントスル者ハ豫メ學校ヨリ交付セル左記様式ノ欠席届ニヨリ届ケ出テシメ

届ケ出テナキ者ニ對シテハ督促ヲ發シ督促數回ニ涉ルモ尙出席セキル時ハ商議員ニ通知シ督促コ依囑スルモノトス

月		日		欠席理由		届人印	担任印
山田農業補習學校 科第 學年 意注 ○此届書ハ記載ノ上直チニ此ノ者ニ渡サルベシ ○本人不在ノ節ハ代人ニテ記セラルベシ ○必ラズ父兄認印ヲ捺スベシ							
欠席届							

第十條 左記ノ方法ニヨリ出席ノ獎勵ヲ圖ルモノトス

一、學年末ニ於テ精勤者表彰

二、各學期末ニ個人別出席一覽表ヲ製作シ補習學校關係者ニ配付ス

三、生徒役員ヲシテ授業日毎ニ各部落ニ出席統計ヲナサシメ競争心ニ訴フ

第三章 職員及役員

第十一條 職員ノ配置ハ學科担任法ニ依ルモノトス

第十二條 學級事務ノ整理ヲ圖ル爲學級担任ヲ置ク

第十三條 事務ノ處理ヲ圖ル爲左ノ係ヲ置ク

庶務係、學籍係、統計係、校報係

第十四條 庶務係ハ本校諸事務ノ整理、統一、文書ノ往復、法令規程等ノ整理學校日誌ノ記錄其他ノ係ニ屬セサル一切ノ事務ヲ行フ

第十五條 學籍係ハ生徒入退學ニ關スル事務欠席生徒ノ督促補習教育學齡取調簿証書授與原簿ノ整理保管ヲナス

第十六條 統計係ハ月末調査表ノ調製、成績一覽表ノ取纏、生徒貯金ノ取扱其他諸般ノ統計調査ヲ行フ

第十七條 校報係ハ山田村教育編輯發行及配布ヲナス

第十八條 生徒自治協同ノ精神ヲ養ヒ兼テ公民的訓練ヲ圖ル目的ノ下ニ各部落ヨリ正副ノ委員ヲ生徒ヲシテ互選セシメ本校諸行事ニ關スル協議調査事務等ヲナサシム

第十九條 生徒中ヨリ男女各一名宛總代ヲ互選セシメ職員ノ指揮ニ從ヒ事務ヲ行ハシム

第二十條 生徒通學ノ關係ニヨリ左ノ部ニ分チ部長ヲ互選セシメ職員ノ指揮ニ從ヒ其ノ部ニ於ケル事務ヲ行ハシム

第一部 山田川東 第二部 山田川西

第三部 吉原 第四部 新田

第五部 出塔 第六部 柏原

第七部 野 第八部 神野々

第四章 諸行事

第二十一條 長期休業中ハ每週二回ノ豫定ヲ以テ印刷物ヲ配付シ通信教授ヲナス

第二十二條 授業休止中男子部ハ教育召集ヲ行ヒ職員ノ講話ノ外生徒ヲシテ講話ノ練習ヲナサシム。召集時期左ノ如シ

六月上旬 八月中旬 十二月上旬(コノ際ハ入退營兵ノ歡送迎會ヲ兼ヌ)

第二十三條 体力鍊磨ノ目的ヲ以テ毎年左ノ時期ニ於テ運動競技會ヲ開ク

四月下旬 十月下旬

第二十四條 毎年仲秋滿月ノ夜滿月會ヲ開キ体育的娛樂ノ外各種ノ娛樂ヲ行フ

第二十五條 隨時専門家ヲ聘シ實業及家事ニ關スル短期講習會及講演會ヲ開クモノトス
第二十六條 毎年一回戸主會ヲ利用シ父兄會ヲ開キ相互ノ連絡ヲ圖ルモノトス

第二十七條 農場、工場、其他實地見學ノ目的ヲ於テ毎年一回視察旅行ヲナシ遠距離ニハ

二三名宛代表者ヲ派シ歸校後報告會ヲ開ク。但該旅費ニ充ツル爲毎學期ノ始ニ於テ一圓宛ノ貯金ヲナサシム

第二十八條 毎年一回男女生徒研究録ヲ發行シ生徒ノ發表機關トシ實費ヲ於テ配布ス

第二十九條 毎年春季ニ一回身體検査ヲ行ヒ身體ノ狀況ヲ明カニスルモノトス

第三十條 本校諸行事生徒諸般ノ狀況ヲ山田村教育ニ揚載シ一般ニ配布ス

第五章 認定及賞罰

第三十一條 學年末ニ左ノ規定ニヨリ成績ヲ定ム

一、各學科成績及實習成績ハ百点法ニ依ル

二、出席歩合ハ百分比ニヨル

三、學科成績實習成績出席成績ノ平均數ヲ以テ其ノ生徒ノ成績トス

但研究科ハ學科成績ヲ欠クコトアルヘシ

四、進級ハ成績及操行ヲ査定シテ之ヲ定ム

第三十二條 學年末ニ出席成績一覽表ヲ作製シ獎勵ノ爲之ヲ公表ス

第三十三條 左記ノ一ニ該當スル者ニハ學年末又ハ隨時賞品及賞狀ヲ授與スルモノトス

一、學力優等ナル者

二、操行善良ナル者

三、實習成績優良ナル者

四、出席成績良好ナル者

第三十四條 補習教育期間ヲ通シテ成績良好ニシテ他ノ模範トナルニ定ル者ニハ賞狀及賞品ヲ授與シテ之ヲ表彰ス

第三十五條 罰ヲ分チテ誡飭、停學ノ二種トス

第六章 生徒簿

第三十六條 生徒簿ハ獎學ノ用ニ供スル外後來自己ノ青年處女時代奮闘ノ歴史ヲ回想セシムル爲入學ノ際之ヲ交附ス

第三十七條 生徒簿ニハ學科成績出席、身體ノ狀況、修卒業、賞罰ヲ記入

第七章 農業實習

第三十八條 生徒ニ學理ノ研究應用ニ力ヲ尽サシメン爲農業實習ヲ課ス

第三十九條 實習地ハ各自家庭ニ於テ男子ハ水田三畝歩以上畑若干坪女子ハ畑若干坪ヲ設定シ存在ヲ明カナラシムル爲標識ヲ備ヘ置カシム

第四十條 生徒ハ學校ノ指定スル良種類ノ品種又ハ自己ノ撰ヒタル品種ニヨリ年度始實習計畫ヲ定メテ栽培シ一定ノ實習成績表ヲ作製セシム

第四十一條 栽培作物ハ立毛又ハ出品ニヨリ品評會ヲ開キ技術家、學校職員老農生徒相互ノ審査ヲ經テ賞狀賞品ヲ授與シ栽培法及結果ノ品評ヲナシ一般村民ニモ其ノ結果ヲ知ラシム

第八章 雜

第四十二條 本校ニハ左ノ表簿ヲ備フ

- 學校沿革史
- 補習教育學齡取調簿
- 學籍簿
- 成績考查簿
- 證書及賞狀授與原簿
- 生徒出席簿

出席統計簿 貯金原簿 日誌

第四十三條 文部選獎記念文庫ヲ設置シ研究參考書辭書新刊圖書及新聞雜誌ヲ購入シ讀書研學ノ趣味ヲ養成スルニ努ム但文庫ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 訓育

第一節 方針

細則第一條參照

第二節 方法

一、農民的

- 1、家ヲ重ンジ業ヲ樂シミ農民ノ地位向上ニ努メ農村振興ニ奮闘セシムルコト
- 2、質實剛健ノ氣風養成ニ努ムルコト
 - (イ) 各種運動ノ獎勵
 - (ロ) 服裝ノ質素、裝身具ノ禁止、五分刈斬髮ノ勵行
- 3、規律ノ習慣養成ニ努ムルコト

(イ) 時間ノ勵行

(ロ) 軍隊的教練ノ實施

二、公民的

通學組合、生徒總代等ノ役員(細則 第十九、第二十條參照)

三、國民的

1、社會奉仕、神社境內ノ掃除、村社祭禮行事ノ手傳及道路修繕等

共ニ關スル働勞ニ服セシム

2、慶賀吊慰。毎年一回入退營兵ノ歡送迎會ノ開催、儀式ニ於ケル參列

其他吉凶ノ場合ニハ互ニ慶吊セシム

四、其他

1、生徒簿(細則第六章參照)

2、表彰(細則第三十三條第三十四條參照)

3、青年心理ヲ攻究シ活氣ノ誘導啓發ニ努ムルコト

4、村內各種ノ機關ト密接ナル連絡協調ヲ保テ一致協同シテ指導誘掖スルコト

要スルニ訓育ノ方法ハ教師ノ人格ヲ經トシ教育諸作用ヲ緯トシ以テ其ノ徹底ヲ圖ルヲ以テ要諦トス

第六章 教授

第一節 方針

細則第一條參照

第二節 各科教授要綱

○修身公民科

第一、教授要旨

教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德要領ヲ授ケ徳性ヲ涵養シ之ガ實踐指導ニ努ムルト共ニ國體ノ觀念憲政及自治制度並ニ經濟ニ關スル事項等ヲ授ケ國民的公民的精神ノ涵養及之ガ訓練ヲ圖ルコト

第二、教材撰擇

山田農業補習學校

文部省制定公民教育數授要綱ニ基キ地方ニ適應セル教材ヲ撰擇ス

第三、教材ノ排列

- 一、豫科ニ於テハ高等小學校ニ於ケル教授ノ要旨ニ基キ一層地方化シテ授クルコト
- 二、本科ニ於テハ立憲的の公民的生活ニ必要ナル法制的の智識ノ授與及經濟的の能率ノ増進ト身體的の能率ヲ圖ル爲メノ教授及訓練ヲナス
- 三、研究科ニアリテハ前項ノ旨趣ヲ擴充シテ一層陶冶ノ効ヲ堅實ナラシムルコトニ努メ進ンデ研究題目ヲ課ス
- 壯丁ニハ勅諭、讀法、兵役ノ要旨ヲ授ケ軍人精神ノ陶冶ニ努ム
- 四、女子部ニ於テハ人倫道德ノ要領及作法ヲ授クル外前各項ノ旨趣ヲ斟酌シテ授ケ女子ニ必要ナル品格ヲ備ヘシムルコトニ努ム

第四、教授上ノ注意

- 一、道德的の智識ノ体得ト實踐躬行コノ兩全ハ本科最後ノ到達点ナルコトヲ教授ノ第一義トスルコト

- 二、時事問題偶發事項等ハ好個ノ活材料タルヲ以テ此ノ科ノ立場ヨリ批判シ趣味ヲ以テ求知心ヲ振作スベシ
- 三、青年處女時代ニ陥リ易キ不道德ニツキ其ノ原因及救濟策等ニ關シ特ニ研究シ置クコト
- 四、教材ノ實例ハ成ルベク實際生活ニ接觸セル問題及新聞雜誌等ニヨリ日常ノ出來事ニ依リ活キタル教育ヲナスニ努ムルコト
- 五、教授ノ態度ハ共ニ修道ノ方面ヲタドル共學的の態度ニ出デ毫モ威壓ナク束縛ナク自發的ニ自己ノ心中ニ靈光ヲ攝取スルノ方法ヲ採ルコト
- 六、公民教育ハ前掲ノ要旨ヲ實現センガ爲メ公民道德ノ陶冶公民トシテ能率増進身體陶冶立憲自治的の性格陶冶等ハ實行ニヨリテ効果アルモノナルコトヲ注意スベシ
- 七、公民教育ノ資料トシテ常ニ郷土ノ理解ニ資スル材料ヲ蒐集シ教授ハ實際化、具体化スルコトニ努ムルコト
- 八、法制ニ關スル事項ヲ授クル場合ト雖出來ルダケ道德上ニ歸結シテ公民トシテノ心得ヲ授ケルコトニ注意スルコト

九、公民生活ニ關スル自治上ノ教授ヲナス場合ニハ市町村府縣ニ關スル種々ノ統計ヲ利用
スルコト

一〇、實行問題ニ觸スルコトハ生徒ヲシテ討議、攻究セシメ自治的精神ノ涵養ニ努ムルコ
ト

一一、經濟上觀念ノ養成ニシイテハ只單ニ學問的ニ經濟學ノ理論等ヲ授クルニ非ズシテ實
際生徒ガ他日實務ニツキ生活スル場合ニ有用ナル教育ヲナスヲ以テ主眼トスルコト

第五、公民的訓練並實習

- 一、三大祝日及皇室國家ノ大典等ニ於テ小學校ニ於テ學式ノ際ハ必ず參列セシムルコト
- 二、神事ニ對スル奉仕ヲナサシムルコト
- 三、奉仕的ニ道路ノ修繕ヲナサシムルコト
- 四、生徒役員ノ選舉ハ村會議員選舉ヲ擬スルコト
- 五、生徒ヲ引率シテ村會ヲ傍聽セシメ時ニハ擬村會ヲ開クコト
- 六、旅行、運動會、講話會ハ生徒ヲシテ立案セシメ可及的生徒ノ意志ヲ尊重シテ實施スル

コト

七、自研會各部ノ活動ヲ旺盛ナラシムコト

八、通學團及各種ノ會合ニヨリ團体的訓練ヲ圖ルコト

九、時事問題偶發問題ノ批判會ヲ開クコト

一〇、左例ニ準ジタル經濟的實習ヲ課スルコト

(イ) 各種統計ノ作製

(ロ) 農業實習ノ設計並ニ其ノ實施成績ノ調査

(ハ) 各種農作物ノ收支計算

(ニ) 一家ノ收支計算ノ記張

(ホ) 村ニ於ケル各種統計ノ補助

○國語科

第一、授教の要旨

國語ハ普通文ノ讀解、作文、書方ヲ授ケテ正確ニ且自由ニ自己ノ思想ヲ發表スル能ヲ得セ

シメ兼ネテ智徳ノ啓發ニ努ムルコト

六二二

第一、讀方

一、教授ノ要旨。小學校ニ於テ收得シタル言語、文字、文章ノヲ練磨習熟セシメ更ニ地方ノ狀況ニ應ジ生活ニ必須ナル文字、文章ヲ授ケ以テ智徳ノ啓發、讀書力ノ養成ニ努メ新時代ニ處スルニ遺憾ナカラシメントス

二、教材ノ撰擇

- 1、地方ノ地理歴史其他農村民トシテ必要ナル教材ヲ撰ブコト
- 2、自カラ讀マントスルガ如キ趣味多キ教材ヲ撰ブコト
- 3、文學的色調ヲ帶ビタル現代文ヲ選ブコト
- 4、精讀材料ノ外ニ新聞雜誌等ノ時局材料ヲ選ビテ自習材料トナシ兼ネテ生徒ノ讀書力養成ニ資スルコト
- 5、口語、文語、韻文初步漢文ノ外ニ最新語ローマ字日用外來語等ヲ教授シ以テ新時代ノ要求ニ應ゼシムルコト

- 6、青年ノ意氣ヲ鼓舞スル爲詩歌ヲモ採用スルコト
- 7、時代文藝ニ對スル鑑賞力養成スル材料ヲ選ブコト

三、教授上ノ注意

- 1、新聞雜誌其他圖書等ハ始業前ニ教室ニテ縱覽セシム
- 2、特ニ重要ナル時事問題ハ膽寫シテ生徒ニ配布スルコト
- 3、詩歌ヲ高唱セシメテ教授ノ變化ヲ圖ルコト
- 4、自學輔導ノ教式ヲ採ルコト
- 5、記念文庫ヲ充分利用スルコトニ努ムルコト

第三、綴方、書方

一、教授ノ要旨。小學校ニ於テ學習セシ事項ヲ基礎トシ更ニ農村生活ニ必要ナル事項ヲ綴ラシメ書カシメ處世上遺憾ナカラシメントス

二、教材ノ選擇

- 1、日用文公用文、ヲ主トシ普通文ヲ加フ

2、農村ニ於ケル實際生活上必要ナル教材ヲ選ビテ手紙端書包ノ上書諸届書式ノ練習ヲナス

3、候文体ハ讀解ニ止メ口語文体ノ形式ヲ選ブコト
4、草書ハ讀解ニ止メ措書、行書ノ字体トス

三、教授上ノ注意

- 1、直接教授ノ外家庭課題トシテ行フコト
- 2、學校及職員ニ對シテノ來信中模範トナルベキモノヲ示スコト
- 3、書方ハ主トシテ硬筆教授トスベキコト

○數 學 科

第一、教授ノ要旨

數學ハ主トシテ算術(珠算及筆算併用)トシ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼ネテ思考ヲ正確ナラシメンコトヲ期スルコト

第二、教材ノ選擇

一、計算ノ習熟ハ實際的問題ヲ正確ニ敏速ニ計算セシムル爲特ニ珠算教授ノ徹底ヲ圖ルコト

二、經濟思想ノ養成ハ經濟方面ノ日常實際的知識ヲ得シムル爲一家並ニ社會生活ニ必要ナル經濟知識ヲ附與スルコト

三、思考ノ鍛練ハ演繹推理ノ數理的頭腦ヲ得シムル爲正確ナル思考ノ習練ト事物整理ノ良習ヲ得シム

第三、教材ノ排列

一、豫科ニ於テハ尋常小學校ニ於テ既習セル事項ヲ復習シ高等小學校ニ於テ學ブベキ事項ニツキ其ノ基礎ナルモノヲ選ビテ之ヲ教授ス

二、本科ニ於テハ小學校ニ於テ既習セル事項ヲ基礎トシ稍高等ナル程度ノ教授ヲナシ家計及農業上ノ須要ナル事項ニツキテ經濟的知識ヲ附與シ又數量的知識ヲ精密ナラシム

三、研究科ニ於テハ本科ニ於ケル範圍ノ外更ニ進ンデ公民生活上須要ナル事項ニツキテモ教授ス

四、女子ニ於テハ特ニ一家經營方面ノ事項ヲ選擇ス

五、珠算ハ豫科ニアリテハ主トシテ加減本科ニアリテハ加減速算乗除法ノ練習研究科ニアリテハ一般練習トス

第四、教授上ノ注意

- 一、日用品ノ時價及賃銀ノ主トナルモノニ就キテハ生徒ヲシテ之ヲ調査セシム
- 二、毎年四月ニ發表スル村統計ハ最重要ナル資料タルヲ以テコレノ活用ヲナスコト
- 三、米麥作養蠶凍豆腐等ニ就キ適宜其ノ收支計算ヲ課スルコト
- 四、時々社會ニ發生スル經濟上或ハ數量的材料ハ努メテ之ヲ教授スルコト
- 五、珠算ノ練習ハ聞キ取り算ト見取り算ト兩方法ヲ必要トス
- 六、通俗的ニ實際的ニ應用的ニ而カモ郷土的ニ取扱フコト
- 七、徒ニ理想ニ走ラズ現在ノ家計ヲ理解シ現在ヨリモ一步進メル家計整理法ヲ授ケソレニ到達スベキ過程ヲ研究セシムベキコト

○理科

第一、教授ノ要旨

通常ノ天然物及自然ノ現象ニツキ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ授ケ兼ネテ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スル習慣ヲ養成ス

第二、教材ノ選擇

一、植物、動物、礦物、及自然現象

1、通常物理化學上ノ現象

2、元素及化合物簡易ナル器械ノ構造作用

3、人身生理衛生ノ大要

二、教材選擇上ノ注意

- 1、理科ハ農業ノ基礎的智識ヲ興フルモノ故當該理科材料ノ精選スヘシ
- 2、新聞雜誌等ノ時事的材料及發見的材料或ハ偶發事項等ヲ採擇利用スベシ
- 3、教授時間數少ナキ爲代表的教材ヲ選ビ確實ナル智識ヲ授クベシ
- 4、効果並ニ趣味ノ兩方面ヨリ季節並ニ日常生活ニ接觸並行セシムヘシ

5、自然的關係ニ從ヒ博物材料ヲ生態的ニ有意的ニ説ク等以テヨク自然ノ眞理ヲ考察セシメ變通應用ノ智識ヲ得セシム

6、特ニ農業教科ノ進度ト相參照シ兩科ノ關係ニ密接ナル交渉アラシムベシ

第三、教材ノ排列

豫科ニノミ課スルモノナレバ、高等小學校ノ理科ニ準ジ教材ヲ配列シ高等小學校卒業生ト同一程度迄ニ進マシムルコト

第四、教授上ノ注意

一、教授ノ前後ヨリ生徒ノ實驗觀察ヲ行ハシムルト共ニ教授ハ勿論直觀物ニ據ツテ教授ノ出發点トナスコト

二、一個ノ教材ハ特種ノ事物トシテ記憶セシムルコトナク之ガ觀念通則ハ可成生徒ニヨリ概括歸納セシムベシ

三、郷土的模式的教材ハ主要部分ニ最モ力ヲ注ギ他ハ素通ニテ可ナリ

四、品性陶冶上實利收得上多大ノ損害ヲ興フル迷信、誤解ノ事項打破ニ留意スベシ

○農業科

第一、教授の要旨

農業ニ關スル普通ノ智識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ助長シ勤勉利用ノ心ヲ養ハシムルコトニ努ムルコト

第二、教材ノ選擇

一、教材ノ選擇ノ範圍

教材ハ農業汎論、作物通論、作物各論、園藝、土壤、肥料、病虫害、養蠶、林業、農政經濟等ノ範圍ニヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ム

二、教材選擇上ノ注意

1、教材選擇上特ニ本村及本郡ノ風土並ニ農業狀態ヲ顧慮シ所謂地方的郷土的材料ヲ主眼トスルコト

2、實生活ニ接觸シタルモノヲ以テ學習ト應用トノ相互關係ヲ充分ナラシムルモノ

3、親シク農業ノ學理及實際ヲ學ブト共ニ盛ナル研究心養成ニ資スルモノ

4、女子ニ於テハ特ニ一家經營上ノ適切ナル農業教材並ニ家事裁縫ノ方面ヲ願慮セル連絡的教材ヲ選擇スルコト

第三、教材ノ排列

- 一、豫科ニ於テハ高等小學校卒業者ト略同一程度迄ニ農業智識ヲ附興スル必要アルヲ以テ農業一般ニツキ分題排列法ニヨリ努メテ季節ニ合セシム
- 二、本科ニ於テハ米麥作、養蠶、土壤、肥料、園藝、病虫害、ニ關スル一般ヲ授ケ科目排列法ニヨリ既授ノ智識ヲ整理シツ、教材ノ實際化ニ努ム
- 三、研究科ハ作物汎論、林業、農業經濟トシ時々研究課題ニ據ラシメ農政上經濟上ヨリ農業界ノ改善發展策ヲ攻究セシム

第四、教授上ノ注意

- 一、教材ノ取扱ニ對シテハ實驗材料ノ蒐集ニツトメ以テ實驗的智識ヲ附與シ實習其他ニ利便アラシムベシ

- 二、豫科ハ動モスレバ趣味ト實益ト相伴ヒ難キモノナレバ其ノ教材ニ就テハ時間上精神上巧ミニ能率ヲ高メンコトヲ要ス
- 三、本科並ニ研究科ニ於テ常ニ生徒ノ實驗觀察ヲ獎勵シ視察見學實習ト相俟ツテ農業ノ趣味ヲ解シ旺盛ナル研究心ノ喚起ニ努ムベシ
- 四、質問ノ便ヲ圖リ特ニ彼等ノ實地上ヨリノ疑義ニツキ解決ヲ與フルニ努ムベシ
- 五、研究題目ヲ與ヘテ成績ヲ調査指導スル場合ハ其ノ課題ニ關聯セル教材ハ極メテ精選シタルモノタルベシ
- 六、農報ヲ發行シ通信教授ヲナス場合ハツトメテ理解ニ便ニシ且實行準備ニ至便アラシムベシ

第五、農業實習

平素習得セシ農業ノ學理ヲ實地ニ應用シテ本村ノ主要農產物タル稻作及麥作ノ改良ノ研究ニ資スル目的ヲ以テ家庭實習地ヲ設定セシム。其ノ實習要領左ノ如シ

家庭實習要領

- 一、家庭實習地ハ父兄ヨリ小作ニテ土地ヲ借受ケ之ニ充テ自ラ栽培ノ任ニ當ルモノトス
但其ノ坪數ハ三畝歩以上トス
- 二、生徒ハ學校ノ指定スル品種ヲ栽培シ、一定ノ様式ニヨル實習設計表ヲ作製スルモノトス
- 三、實習地ニハ必ず標識ヲナシ存在ヲ明カナラシムベシ
- 四、教師ハ時々實習地ヲ巡視シテ指導注意ヲ與フルモノトス
- 五、收護米(麥)―又ハ立毛ノ儘―及實習設計表ハ期日ヲ定メテ、品評會ヲ開キ技術家及老農ニ審査ヲ乞ヒ獎勵研究ニ資スルモノトス
- 六、實習ノ結果或ハ獎勵シ或ハ矯正スベキ点アル事ヲ纏メ得タル時ハ學區内一般ニモ其ノ結果ヲ知ラシムルコトトス
- 七、實習設計表ハ記載終リ後眞ニ學校ニ差出サシムルモノトス、其ノ實習設計表ノ様式左ノ如シ

水稻栽培設計及日誌											科第	學年	名		
位	反	位	肥料ノ種類 及施用 量	採種方法	品種	前作ノ狀況	土質	反別	位	苗代ノ設計	月日	日誌ニハ作業ト設計ノ變更トチ詳細ニ記入ス			
質	別	置										本	田	ノ	設

前作狀況	整地	肥料ノ種類及施肥ノ方法	稱秧期	稱秧	灌水排水ノ注意	除草方法	除日、回数	害虫驅除	穗出期	出穂後ノ管理	刈取期	乾燥法	及其他
			月	一株 本一坪									
			日植	株 東西 南北									

收支計算表 大正 年 月 日計算

收入之部						支出之部							
品目		數量	金額	品目		數量	金額	感損					
合計						合計						合計	

麥作設計表ハ上記ノ設計表ニ準據ス

山田農業補習學校

以上ノ家庭實習地ノ外

- 一、蔬菜栽培 特ニ學校ヨリ種子ヲ支給シ各種ノ蔬菜ヲ栽培セシム
- 二、病虫害驅除 學校ニ消毒用具ヲ備付シ生徒ニ貸與ヲナシ實際使用セシム

○裁 縫 科

第一、教授ノ要旨

普通衣服ノ裁方、縫方、洗張等ニ關スル智識技能ヲ授ケ節約利用ノ習慣ヲ養ハシムルニ努ムルコト

第二、教材ノ選擇

- 一、豫科ニ於テハ普通衣服ノ裁方、積方、縫ヒ方及繕方ニ習熟セシメ生活上必須ナル實用の技能ヲ授ケ兼ネテ衣類ニ關スル衛生經濟等ノ思想ヲ與ヘ且ツ審美的感情ヲ養ヒ綿密清潔、整頓、秩序、勤勉等ノ良習慣ヲ得シメ節約利用ノ法ニ慣レシムルコト
- 二、本科ニ於テハ前項ノ趣旨ニ準シ稍程度ヲ高メテ教授シ精巧ナラシメ通常ノ衣類ヨリ初メ上達ニ從ヒミシン裁縫並ニ手藝ヲ教授ス

三、研究科ニ於テハ前項ノ趣旨ニ基キ一層高等ナル程度ニ於テ教授シ精巧敏速ナラシムルト共ニ研究心ノ養成ニ努ムルコト

第三、教材ノ排列

- 一、豫科 運針練習、普通衣服ノ裁方、積方、縫方及繕ヒ方（木綿被繼、接キ、割接キ）小裁、中裁、本裁、男女襦袢、一ツ身、三ツ身、四ツ身、單衣、本裁男女單衣
- 二、本科 運針練習、普通衣服ノ裁方、縫方及繕方（絹布ノ割接ギ、掛接キ、穴まどひ織繼ギ色々繼ギ、本裁、男女單衣、袴、綿入、帶、羽織、子供被布、男女袴）ミシン縫ニエブロン各種、足袋カバー、涎掛各種、割烹前掛、シャツ及ツボン下、小兒下着及簡單服
- 手藝ニ手提袋 細工物
- 三、研究科 運針練習、普通衣服ノ裁方積方、縫方及繕方（絹布毛織物）男女單衣、袴、綿入、男女帶、男袴、女單衣本重衣、袴男女重衣、綿入、本比翼、附比翼、股引、脚胖丹前、小夜着、大夜着、油篋等

ミシン縫、エプロン各種、涎掛、割烹前掛、シャツ、ツボン下、半ズボン、各種、男女
 猿又、婦人シャツ、婦人股引、子供服、子供帽子
 手藝、編物囊物、名刺入、金貨入、煙草入、爪揚子入、鏡入等
 刺繡、ハンカチーフ、半襟、寫真掛、額、テーブル掛、ドロンフラークニテ夏半襟手提
 袋ハンカチーフテーブル掛等

第四、教授上ノ注意

- 一、單ナル技術的方面ニ止マラズ道德的經濟的見地ニ導クコトヲ怠ルベカラズ
- 二、地質ノ精粗購入ノ方法、鑑別法等ニ關スル知識ト職能ヲ得シムルコトニ注意スヘシ
- 三、積リ方ト經濟方面ト密接ナル關係アルヲ以テヨク數學科ト聯絡スヘシ
- 四、農村女子トシテ服裝ニ關スル正鵠ナル理解ト着實ナル精神ヲ体得スルコトニ努ムヘシ
- 五、衣服其ノ他ノ利用厚正ノ方面ニ關スル研究ヲ十分遂ゲ置カシムルヲ必要トス
- 六、衣服其他ノ保存整理等家事科ト密接ナル關係アルコトニ留意シ教授ヲ進ムルコトヲ要ス

第五、裁縫教授上ノ施設

- 一、成績品廉賣會
 婦人會、父兄會、展覽會等婦人會台ノ機ヲ利用シ生徒ノ製作ニヨリ子供服、エプロン涎
 掛其他手藝品ヲ實費ヲ以テ販賣ス
- 二、成績品展覽會
 毎年一回ノ豫定ヲ以テ成績品展覽會ヲ開ク
- 三、競技會
 基礎的技術練習ノ爲運針等ニツキ競技會ヲ開ク
- 四、仕立物ノ受負
 練習材料ノ不足ヲ補フ爲校下一般ヨリ各種ノ仕立物ヲ廉價ニテ受負フ

○家事科

第一、教授ノ要旨

衣食住家事經濟看病育兒等家政ニ關スル事項ヲ授ケ且ツ可成實習ヲ課シ以テ一家經理上必

要ナル實際的智識技能ヲ得シムルコトニ努ムルコト

第二、教材ノ配列

- 一、豫科ニ於テハ高等小學校ニ於ケル教授ノ要旨ニ基キ一層地方化シテ授クルコト
- 二、本科研究科ニ於テハ家事整理上必要ナル諸智識ヲ與ヘ且ツ之ニ關聯シテ必要ナル技能ヲ實地練習セシメ兼ネテ齊家ノ爲ニ必須ナル勤勉節約秩序周密清潔等ノ良習慣ト自己ノ天職ヲ重ンジテ家庭ヲ愛スル念ヲ養フコト

第三、教材ノ選擇及教授上ノ注意

- 一、本村ノ風俗習慣並ニ生活狀態ヲ顧慮シ郷土的事項ヲ重視スルコト
- 二、實生活ニ適切ナラシメ常ニ實際ニ接觸セシムルコト
- 三、理論ニ偏スルコトナク成ルベク實習ヲ多カラシムルコト
- 四、他ノ教科目（裁縫、理科、數學、修身）ニ於テ授ケタル事項ハ力メラ之ヲ實際上ニ應用セシムルコト
- 五、節約利用、廢物利用ノ良習慣ヲ養フコト

六、經濟思想ノ養成ニ資スルモノナルベキコト

七、時勢ノ進歩ニ應ゼシムル爲新出問題ニ對シテハ實際ニツキ適切ナル批判ヲ下シテ其ノ向フ所ヲ明カニスルコト

八、豫科ニ於テハ高等小學校家事教科書ヲ採用ス

第四、實習上ノ施設

- 一、實習要目ノ制定
地方ニ適應セル實習要目ヲ制定ス
- 二、實習上ノ設備
實習要目ニ基キ必要ナル實習用具ヲ蒐集シテ其ノ完備ニ努ム
- 三、家事當番
學校來客ヲ自己ノ家庭ノ來客ノ如ク見做シ接待セシム
- 四、家庭トノ聯絡
改善セル實習事項ハ家庭ニ應用セシム

五、實習上ノ參觀

模範的家庭ノ實際狀況及一家整理ノ方法ヲ參觀セシム

第三節 教科書

現在使用セル教科書左ノ如シ

(男子部)

分科學年	科 本	科 豫	修身公民	國語	數學	農業	理科
一、二年	一年 一年(乙)	偶 奇	土屋 補習修身公民教 科書上 (前半)	補習國文讀本 卷二	田口 補習算術 (前半)	記入式農業教本 養蠶、稻作、麥作 土壤、肥料 右同 養蠶、稻作、麥作 土壤、肥料 右同 蔬菜、作物害虫	近藤 理科讀本 (前半)
三、四年	二年 三年、四年	偶 奇 偶 奇 甲	同中 (前半) 同中 (後半) 同中 (後半)	同 現代文新鈔 卷二	同 農業補習學校數 學補習出後期上 同後期下	同 後	同 (後半)

(女子部)

分科學年	科 本	科 豫	修身公民	國語	數學	農業	家事
一、二、三年	一年 二年 三年	初 中 終	同下 二分ノ一宛	現代文新鈔 卷二	作物汎論 農業經濟	作物汎論 農業經濟	
一、二年	一年 一年(乙)	補 奇	男子部ニ同シ 男子部ニ同シ	補習國文讀本卷一 同 卷二	男子部ニ同シ 男子部ニ同シ	記入式農業教本 大意 前 同 後	高等小學 家事教科書 卷一 同 卷二
三、四年	二年 三年、四年	偶 奇 偶 奇 甲	新時代處女修身 書(前半) 同(後半)	男子部ニ同シ 男子部ニ同シ	新時代經濟算術 書(前半) 同(後半)	右同 養蠶、稻作、麥作 稻作、麥作 養蠶、稻作、麥作 蔬菜、作物害虫 果樹、作物害虫	實地應用 家事教科書 (上) 同上(前半) 同上(後半) 同下(前半) 同下(後半)

第四節 教授要目

山田農業補習學校

教授ノ進行ヲ按配スル爲教授要目ヲ定メ左記様式ノ要目記入用紙ニ要目ヲ記入シ各教科書ノ卷頭ニ貼附シ以テ教授ノ活用ニ資ス

		週	科第	學年 () (偶)
第一學期	四月	1		
		2		
		3		
		4		
	五月	5		
		6		
		7		
	六月	8		
		9		
	七月	10		
		11		
		12		
13				
第二學期	九月	14		
		15		
		16		
		17		
	十月	18		
		19		
十二月	20			
第三學期	一月			
	二月			
三月				

第七章 体育

第一節 方針

細則第一條參照

第二節 体育上ノ施設

一、体育協會ノ活動

補習學校生徒ヲ中心トシテ山田村体育協會ヲ組織シ左ノ各部ニ分チ各種ノ運動ヲ練習セシメ毎年春秋二回大運動會ヲ開キ以テ運動ノ獎勵ヲナス

- 第一部 トラック部
- 第二部 フォイルド部
- 第三部 庭球、野球部
- 第四部 擊劍、銃創部
- 第五部 角力部

二、遠足旅行

山田農業補習學校

農閑期ヲ利用シ心身ノ鍛練ヲ主トシタル遠足、旅行ヲ行フ。而シテ該旅費ニ充ツル爲毎年金四圓宛、旅行貯金ヲナサシム

三、軍隊教練

在郷軍人ノ指導ニヨリ軍隊教練ノ練習ヲナシ以テ心身ノ修練ト一般軍隊教練ノ基礎ヲ授ク

四、身体検査

毎年春季ニ於テ身長、体重、胸囲ニツキテ体格検査ヲ行ヒ發育標準表ニ照シテ甲、乙、丙ニ區別シ如何ニ各自ガ發育シツ、アルヤヲ知悉セシメ体格ノ向上ヲ圖ル

第八章 娛樂

一方ニ於テ嚴格ナル規律的訓練ヲナスト共ニ一面ニ於テ極メテ無邪氣ニシテ天真爛漫タル氣風モ亦必要事タルヲ失ハズ、コレガ爲ニ彼等ノ生活ニ情味ヲ與フル娛樂ヲ加フルハ最モ策ノ得タルモノナリ、此ノ意味ノ下ニ本校ニ於テハ修養上有害ト認めザル限り努メテコレガ獎勵ヲナス、其ノ實施セル事項ヲ舉クレハ

一、各種競技ノ獎勵

各種競技ハ一面体育ナルト同時ニ一面大ナル娛樂ノ意ヲ含ムモノナレバ特ニ獎勵シツ、アリ

二、文藝趣味ノ喚起

田園趣味ノ高潮、俳句、和歌、等ヲ作ラシメ文藝號ヲ發行シテ文藝趣味ノ喚起ニ努ム

三、樂器

樂隊器具、蓄音器、其他樂器ニヨリ音樂的藝術味ヲ味ハシム

四、小學校開放

地方休日ニ運動器具等ヲ隨時使用セシメ、庭球、野球、擊劍、角力等ヲナサシメ意氣ト慰安トヲ與フ

五、活動寫眞

學校教育ノ援助一般民衆ニ娛樂ヲ與フル目的ニテ活動寫眞器械ヲ備付シ趣味ト娛樂ト實益トヲ與フ

六、娛樂日

年一回(大抵宇羅盆)娛樂日ヲ設ケ校庭ニ紅提灯ヲツルシ補習生徒ヲ中心トセル各種ノ娛樂ヲ行ヒ一般民衆ノ娛樂ニモ資ス

第九章 各種團體トノ連絡

一、戸主會

補習教育義務制規約ハ戸主會ニ於ケル決議ニシテ戸主會ト本校トハ密接不離ノ關係ヲ有スル外ニ戸主會開會ノ際ニハ職員出張學校ノ内容生徒出席ノ獎勵出席、成績ノ公表風紀上ノ協議等ヲナシ、補習教育ノ振興ヲ圖ル。尙山田村教育、成績表等ハ配布揭示ニヨツテ内容ヲ周知セシムルコトニ努ム

二、山田村教育會

每學期一回ノ豫定ヲ以テ當局者、學務委員、補習學校商議員ヨリ成ル役員相會シ學校教育乃至社會教育ニ就キ商議ヲナシ補習教育ノ進展ヲ圖ル

三、青年會及婦人會

青年會及婦人會ト本校トハ異名同身ノ形ニシテ殊ニ役員ハ就學及出席ノ獎勵ニハ献身的ニ努力ス

四、農事實行組合

本校ハ農事實行組合ノ一員トシテ農事改良ノ核心タルノ概ヲ以テ進メリ

五、軍人會

本校壯丁科ノ爲ニ軍人分會長、在郷將校特志ヲ以テ教授ノ任ニ當ル

第十章 行事一覽

四月五日 受持學科、學級擔任、事務分掌ノ決定、時間割作製

八日 授業開始

中旬 商議員ニ部内生徒通知、生徒役員選舉、旅行貯金納付

下旬 女子部旅行遠足、運動競技會、生徒身体檢査

學齡取調簿調製

五月上旬 自研會費納入、山田村教育發行、補習學校一覽表提出

- 二十日 授業休業
- 六月上旬 教育召集、文化講座、實習特別指導（稻作）
- 二十一日 授業開始
- 七月上旬 簡易手藝品廉賣會、旅行貯金納付
- 中旬 山田村教育發行、第一學期成績考査
- 下旬 稻作實習地巡視
- 三十一日 第一學期授業終ル
- 八月上旬 男子部旅行遠足
- 中旬 教育召集
- 下旬 文化講座
- 九月一日 第二學期授業開始
- 上旬 旅行貯金納付
- 中旬 男子研究録發行

- 下旬 女子庭球競技會
- 十月上旬 自研會費納入、山田村教育發行
- 中旬 文化講座、男子部第二學期考査
- 下旬 家庭稻作實習成績審査
- 二十二日 男子運動會
- 二十三日 女子運動會
- 三十日 本日ヨリ授業休業
- 十一月下旬 体育協會マラソン參加
- 十二月上旬 入退營兵歡送迎會、授業開始
- 中旬 山田村教育發行、女子部第二學期成績考査
- 一月七日 第三學期授業開始
- 中旬 文藝誌發行
- 二月中旬 女子研究録發行

下旬 學藝會、文化講座、山田村教育發行

末日 補習教育ヲ受クヘキ者ノ調査

三月上旬 旅行貯金納付

中旬 成績考査

二十五日 男子部証書授與式、出席成績一覽表發表

二十六日 女子部証書授與式、學籍簿手入

備考 年中行事ハ年ト共ニ改正ヲ加フルモノニシテ、一定不變ノモノニアラズ

●第十一章 結 語

今日直面セル國家ノ重要問題タル農村ノ繁榮農村ノ福祉之ヲ教育ノ力ニ待タザルベカラズ即チ教育ニヨリテ清淨無垢ノ時代ヨリ不斷ノ刺戟ヲ與ヘ以テ農民トシテ眞ノ自覺ヲ喚ビ起サザルベカラズ、殊ニ青年時代ハ漸ク自己ノ進路ヲ定ムベク其ノ撰擇ニ迷ヒ煩悶苦惱遂ニ前途ヲ誤ルモノ少ナカラズ。此ノ時ニ其ノ相談相手トナリ話相手トナリテ適當ニ裁斷シ懇篤ナル指導ヲ加ヘザレハ彼等ノ前途誠ニ見ルニ堪エザルモノアリ、聞クニ忍ビザルモノア

リ。カ爾ガ故ニ茲ニ小學校ヲ終リタルモノヲ更ニ補習學校ニ迎ヘテ堅實ナル思想ヲ養ヒ田園趣味ヲ味ハシメ農村生活ノ眞價ヲ想ハシメ地方農村ノ民トシテ眞ノ自覺アラシメンカ希クハ農村ニ於ケル健全ナル相續者タルニ庶幾カラシカ

カクシテ小學教育ト補習教育ト一貫ノ系統ヲナシテ圓滿ニ發達シテ茲ニ始メテ學校教育ハ其ノ價值ヲ發揮シ一村ノ文化ハ進ミ一村ノ風紀ハ革リ一村ノ自治遺憾ナク行ハル、コト信シテ疑ハズ、本校茲ニ創立已ニ十五年ノ日子ヲ經テ未ダ其ノ体形ヲ整ヘタルニ過ギズト雖唯吾人ハ自己ノ使命ニ向ツテ邁進スレバ何レノ日ニカ理想郷ノ建設ノ機アラントノ自信ト樂トヲ持スル者ナリ、筆ヲ擱スルニ當リ所信ヲ述ベテ結尾トス

二四、本校情况 德島縣阿波郡市場農業補習學校

一、情 况

(一) 市場町ノ廣表

市場農業補習學校

東西（最長）二十六町六間
 南北（最長）六十四町三十五間
 面積 〇、七九方里

- (二) 職業別戸數人口 (省略)
- (三) 地目別土地段別 (省略)
- (四) 産業ノ概要

本町住民ノ過半ハ農業ニ從事ス從ヒテ産業トシテ主要ナルモノハ農工業トス
 本町低地部特ニ吉野川沿岸ハ古來藍作盛ナリシガ二十餘年前ヨリ外藍ニ壓倒サレ次テ
 砂糖モ亦洋糖ノタメニ不振ヲ來シ之ニ換フルニ養蠶業次第ニ發達セシカバ藍甘蔗作地
 ハ忽チ桑園トナレリ然ルニ近年米價ノ騰貴ト食糧問題ノ宣傳セラル、ニヨリ本町一般
 米作ヲ企望スル者多ク個人トシテ水田ヲ作り又團體トシテ耕地整理ヲナスニ至レリ尙
 養蠶業ノ急速ナル發展ハ製絲業ノ促進ヲ致シ阿波郡是製絲株式會社其他ノ製絲工場數
 個所ニ設立セラレ工業ノ大進展ヲ來スニ至レリ

今左ニ本町大正十二年度ニ於ケル各種物産額ヲ掲グ

主要 産物	三一九、二七二圓
産 繭	二五六、二九九圓
製 絲	三八〇、七一七圓
畜 産	一〇、七一八圓
果 樹	二、七〇〇圓
林 産 物	二四、〇八〇圓
水 産	五二〇圓
工 業	二五三、〇九八圓
計	一、二四七、四〇四圓

二、學校ノ沿革

一、明治三十五年十月市香尋常高等小學校ニ附設市香村立市香農業補習學校ト稱シ毎年
 四ヶ月間季節教授ヲナス

市場農業補習學校

- 一、明治四十四年十月規程ヲ改正シ市場町立市場農業補習學校トス
- 一、大正五年三月通年教授ノ女子補習科ヲ併設シ規定ヲ變更シ市場町立市場實業補習學校ト改稱ス

- 一、大正六年七月補習學校専用ニ屬スル校舍(四間半ニ十四間)ヲ一棟新築ス
- 一、大正十年十一月德島縣令第廿二號ニ基キテ學則ニ變更ヲ加ヘ市場農業補習學校ト改メ以テ現今ニ至ル

三、學校ノ組織

一、修業年限

女子部	男子部	前期		後期		研究科
		前	後	前	後	
二ケ年	二ケ年	二ケ年	三ケ年	三ケ年	三ケ年	
二ケ年	二ケ年	二ケ年	三ケ年	一ケ年	三ケ年	

(二) 教授時期及時刻

一 男子部 農閑季節ニテ四ケ月

A、時期

女子部
 前期 農閑期ニテ四ケ月
 後期 小學校ニ準ズ

B、時刻

夜間二時間 (男子部)
 小學校ニ準ズ (女子部)

(三) 一ケ年間ノ教授日數及時數

種別	男子部		女子部	
	前期	後期	前期	後期
各學年教授日數	一〇〇	八〇	七二	二四〇
同上 教授時數	二〇〇	一六〇	四〇〇	一、三〇〇
研究科	五〇	一〇〇	二四〇	二四〇

(四) 學科課程表

別紙參照

四、生徒

一、生徒數

市場農業補習學校

學年	前期		後期		研究科		合計		學級	學級	年編	生徒數
	男	女	男	女	男	女	男	女				
一	〇	〇	一七	三六	〇	〇	一七	四〇	一	後期一年男	一七	
二	〇	〇	二五	二三	〇	〇	二五	二三	二	後期二年男	二五	
三			二〇	二〇	〇	〇	二〇	二〇	三	後期三年男	二〇	
計	〇	〇	二六	五九	〇	四	六二	六二	五	後期二年女 後期一年女 後期三年女 研究科女	三六 二〇 二五 四	

備考 大正十三年度マデ前期各學年ニ收容スベキ者ニシテ町内ニ現住セルモノナシ

五、職員 (省略)

六、經費及設備

(一) 經費 (大正十三年度豫算)

入	歲		補	助	合計
	設立者負擔	授業料			
六七八圓	〇	〇	國庫	縣	其他(郡)
			〇	一、二〇〇圓	一、〇〇〇圓
				二、二一〇圓	二、七九八圓

出	歲		臨時費	合計
	俸給	手當		
一、九八〇圓	五七六圓	三〇	〇	二、七九八圓
		其他計		
		二二二		
		二、七九八		

備考大正十四年度ハ補助ヲ仰ガズ三、三六五圓ヲ町ヨリ支出スベク可決セリ

(二) 設備 (大正十三年十二月末日現在)

校	敷地		校舎		其他	
	專用	共用	專用	共用	專用	共用
敷地	一五〇坪	一九七四坪	普通教室	五室	器具	一〇二点
運動場	四三〇坪		講堂	一棟	機械	一五
水田	二二二六		裁縫室	二室	模型標本	五八
桑園	三〇〇		割烹室	一室	圖書	五六
花壇	五〇		職員室	一室	實習用具	三一
柑橘園		一一〇	物置	一室	農業用具	一八
蔬菜園	五〇		器械室	一室	實習用具	五六〇点
計	一一〇六坪	二〇八四坪	四室	九室		四四五点

七、就學出席ニ關スル施設及其狀況

(一) 就學出席ニ關スル施設

- A、職員一致シ各生徒ノ家庭ニツキ徹底的ニ父兄ノ諒解ト自覺トヲ促ス
- B、毎年成績品展覽會一回父兄會母姉會各二(春秋)回開催

(二) 就學出席狀況 (省略)

八、教授及實習ニ關スル施設

一、教授ニ關スル施設

- A、市場町ヲ基礎トセル「郷土教授資料」ノ編纂
- B、徳島縣ノ獎勵品種ニ關スル桑樹見本園ノ特設
- C、教材園ノ設定
- D、本縣獎勵ニ係ル主要作物各品種ノ標本常設
- E、購入肥料ノ全標本ヲ蒐集陳列シ一目其ノ良否ノ鑑別ニ資ス

二、實習ニ關スル施設

甲、農業實習

(實習地六二六坪)

男子部

1、家庭實習

(イ) 一畝農業 町農會トノ聯絡シ優良種子ノ配付ヲナシ專任教員之ガ指導ノ任ニ當リ試作研究セシム

(ロ) 實習設計書作付順序表ノ作成 (別紙參照)

農業經營ニ關スル智識ヲ得シメ兼テ合理的計劃的農業ヲ營マシムルタメ生徒ヲシテ設計書並ニ作付順序表ヲ作成セシム

(ハ) 生徒生産品々評會開催

第二學期末秋蒔蔬菜收穫後生徒ノ生産ニカ、ル一般農產物ヲ出品シ比較研究セシム

2、學校實習 特ニ專問ノ技術者ヲ招聘シテ實習スル場合或ハ試験ノ成績ヲ調査スル場合ニ招集シテ實習ヲナサシム

女子部

1、草花栽培

土ニ親シマシメ園藝趣味ヲ助長シ兼テ美的情操陶冶ノ一助タラシメンコトヲ目的トシテ草花ヲ栽培シ種子ノ選擇ニ栽培法ニ其他ノ計劃ニ總テ生徒ノ自由ニ委ヌ斯クテ四時花ノ絶ユルコトナカラシム

2、蔬菜栽培

地方的ニ主要ナル品種ヲ試作シ品種固有ノ特性ヲ明ニシ併セテ栽培ノ方法ヲ會得セシム

3、農産製造

家事科ト聯絡ヲ保チ特ニ農家ノ主婦トシテ必要ナルモノ、製造ヲ行フ(切芋、干大根、味噌等)

乙、家事科實習

1、洗濯(各種ニ對スル洗濯液、浸漬法、洗濯法糊付、乾燥、仕上ノ實習)

實習ノ種類 單衣丸洗、綿布色物洗濯、同上張板法、木綿白布洗濯、絹布洗濯、シ
ンシ張等

2、割烹

實習ノ種類 飯、味噌汁、甘煮、澄汁、和物、揚ケ物、椀物、酢ノ物、汁粉、漬物
すし、菓子類、夏ノ飲料、水菓子、加藥飯、西洋皿物、茶椀蒸、小井、フライ、本
膳、簡易ナル會席料理等

丙、染色實習 綿布絹布ノ簡易染色及絞染法

九、訓練ニ關スル施設

甲、訓練ノ主義

團体的 全校ニ校風ノ養成
訓練 學級ニ級風ノ養成
個人的ニ特性ノ發揮

乙、全校訓練ト統一法

市場農業補習學校

A、校訓

1、大綱 謹ミテ教育勅語戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉体シ

大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

堅實ナル志操ヲ持スベシ

2、要目 品性ノ向上ヲ計ルベシ

質素ヲ旨トスベシ

B、統一法

1、修身教授 校長全級ノ修身科教授ヲナス

2、朝會 所定ノ規程ニ從ヒ毎日始業前十分全校生徒ヲ一場ニ集メ校長若クハ

他教員ヨリ訓諭ヲナス

3、講堂訓話 毎月一回全生徒ヲ講堂ニ集メ時事、偶發事項等ニツキ訓話ヲナス

4、職員會 毎月一回職員會ヲ開キ統一ヲ計ル

丙、學級訓練法

一、操行

1、校訓ノ趣旨ヲ遵奉シテ克ク之ヲ實現セシメンコトニ努ム

2、全級ニ正副級長ヲ置キテ自治的活動ヲナサシム

3、朝會並ニ講堂訓話ノ際說話サレタルコトヲ布演シテ其ノ實行ヲ促ス

4、退校若シクハ卒業セシ學友ト音信ヲ絶タザラシム

5、生徒ノ偶發善行ヲ採リテ古今ノ善行ニ對照シ以テ進取ノ氣象ヲ鼓舞ス

6、缺席者アル時ハ必ス學友ヲシテ訪問セシメ、次ノ日其ノ概況ヲ全級生徒ニ報告

セシム

丁、個人訓練法

一、長所ノ助長 個性觀察ニヨリテ得タル生徒ノ長所ヲ指摘シテ之ヲ稱揚シ且ツ之ヲ

自覺セシメテ其發達ヲ計ラシム

生徒個性ノ長所ニシテ發達ヲ認メタル時ハ之ヲ一般生徒ニ發表シテ責任ヲ負ハシム

他生徒ニモ長所アルベキヲ信シテ之ヲ索メ各自ヲシテ自己發展ノ素地ヲ作り其ノ養

成ニ努メシム

二、短所ノ救済 生徒ノ短所ハ適法ニヨリ之ヲ善良ナル方面ニ誘掖シ、他日其ノ缺陷ヲ補ヒタル場合ニハ之ヲ指摘シテ賞讃ス

三、訓誡法

(イ) 缺所ヲ生ゼシ其ノ動機ヲ反省セシム

(ロ) 訓誡ハ同情ヲ以テシ他聞ノ憂ナカラシム

(ハ) 父兄親族ノ地位名望アルモノヲ索メテ反省ノ材料ニ資ス

(ニ) 祖先ノ功績ヲ思ハシム

(ホ) 父母教師ノ熱愛ニ感激セシム

(ヘ) 自己ノ名ヲ命ジタル父母ノ真意ヲ思考セシム

(ト) 自校ノ名譽ヲ思ハシム

十、特ニ研究シタル事項

一、教授上 教材ノ地方化 市場町ニ於ケル現行農業ノ得失ヲ精査シ其ノ長所ヲ助長シ

缺陷ヲ改善シ以テ我が町ノ産業ノ發展促進ヲ唯一ノ出發點トスルコト

二、訓練上 思想ノ善導 農業者トシテ社會ノ組織人トシテ青年自覺ヲ促シ善良ナル公民タラシムベク腐心センコト

三、學校家庭ノ聯絡 父兄母子ヲシテ補習學校ヲ諒解シ、眞價ヲ確認セシメ、又生徒ヲシテ克ク興味ヲ以テ通學ニ勵マシムルニ專心ノ努力ヲ拂ヘルコト

以上三要ハ本校ノ最モ苦心研究セル所ニシテ、之ヲシテ豫期ノ好果ヲ收ムル爲ニハ唯

一、教師ノ協力一致 二、持續的熱誠ト研究努力

ニ依ラザルベカラズ、我校ハ幸ニシテ聊カ此ノ自覺アルヲ信ズルモノナリ

特ニ一言スベキハ農村ノ補習教育タルヤ萬般ノ施設ハ遠大奇拔ノ理想論ヨリハ平凡ニシテ單純ナルモノタラザルベカラズ、直チニ取リテ以テ實現シ得ルモノタルヲ要ス、要ハ唯其ノ「徹底」ニアルノミ

二、地方教化及産業改善ニ關スル施設及実績

一、地方教科上ニ及ボセル実績

市場農業補習學校

1、青年處女ノ品性ノ向上セルコト

思想上、体格上、將タ風紀上何レモ健全ナル發達ヲ遂ゲ、徵兵検査等ニ於テモ成績常ニ當管區内ノ首位ヲ占メツ、アリ

2、特ニ女子ノ向學心ヲ高メシコト

小學校卒業ノ女子ニシテ上級學校へ入學セザルモノニテ本校ニ入ラザルモノハ皆無ノ現況ナリ

3、補習學校ノ眞價ヲ是認スルコト

(イ) 就學出席歩合ノ向上セルコト

義務教育ノソレヲ凄駕スルノ現況ニテ病氣以外ノ缺席者ハ殆ド皆無トナレリ

(ロ) 裁縫材料ノ豊富ナルコト

通年教授ノ女子補習學校ノ通弊トシテ最モ遺憾トスル所ハ裁縫材料ノ缺乏ト不統一ノ點ニアリ。然ルニ本校ニアリテハ、寸毫ノ掛念ヲ要セズ、絹布、毛布、麻布等其ノ何レニ拘ラズ終始細目ニ準シテ同時、同教材ニテ一齊教授ヲナシ來レリ

(ハ) 校費ノ決議圓滿ナルコト

昨年度迄ノ學校經常費ハ其ノ過半迄縣郡ヨリ補助サレシガ十四年度豫算ハ通常豫算會ニ於テ滿場一致「三三六五圓」ヲ獨力支出スベク可決セリ

二、産業上ニ及ボセル實績

1、産業上ノ智識ヲ向上セシコト

2、實際的ニ効果ノ多大ナルコト

(イ) 甘蔗栽培ニ根本的ニ改良ヲ加ヘシコト

(ロ) 蔬菜一般ノ品種ニ改善ヲ加ヘシコト

(ハ) 稻麥作上ニ於テ品種統一ト栽培法ノ改善

(ニ) 養蠶飼育上ニ改善ヲ加ヘシコト

以 上

二五、施設經營要覽愛知縣東宇和郡田之濱水産補習學校

- 一、土地ノ情況 (省略)
- 二、學校ノ沿革 (省略)
- 三、組 織 (省略)
- 四、生 徒 (省略)
- 五、教授日數及教授時間 (省略)
- 六、生徒出席歩合

年 度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度
百 分 比	七七、二二	九〇、五七	八四、七一	八二、二八

七、卒業及修業生 十四年三月調

本 科	卒 業 生	修 業 生	別 科	修 業 生
一	二〇	二〇	一	二七
二	〇	〇	二	二

八、卒業生情況 上級學校へ入學セシモノ十二人船員五人ノ外總テ實業ニ従事

九、職員組織 (省略)

十、經常費

年 度	専任教員給	兼任教員給	其 他	合 計
大正十年度	一一一六、〇〇〇	一一七、〇〇〇	一〇二一、〇〇〇	二三三四、〇〇〇
大正十一年度	一一五二、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇五一、六〇〇	二三八三、六〇〇
大正十二年度	一一六四、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇三五、〇〇〇	二三七九、〇〇〇
大正十三年度	一二〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	八六一、〇〇〇	二三三三、〇〇〇
大正十四年度	一三二〇、〇〇〇	二五二、〇〇〇	九二九、〇〇〇	二五〇一、〇〇〇

十一、補助金 (省略)

十二、設 備

A、建物及ビ備品

- 1、校地 三百八十五坪 [小学校ト併用]
- 2、校舍 1、教室 二 三十二坪 [専用]

田之濱水産補習學校

口、標本室 一 八 坪 全
 ハ、事務室 一 五 坪 全
 ニ、廊 下 一 十 坪 全

3、器具機械

三百六十五點

4、圖書

三百四十五點

5、標本

四百二十三點

B、實習

1、漁撈部

延繩類 一本釣具 曳釣具 竿釣具 磯釣具 潜水用具 曳網具 刺網具

2、製造部

乾製品製造具 海草製造用具 標本製造用具 製造室一棟 罐詰製造機械
 多管式小型ボイラー及ビ蒸氣吹込式殺菌釜及ビ二重釜

3、養殖部

1、淡水養殖場 甲池十坪 乙池五十坪
 2、鹹水保護養殖場 公有水面借用九千四百坪

十三、水產教科

一、漁撈科

イ、網漁業 抄網類 掩網類 曳網類 旋網類 敷網類 臺網類
 ロ、釣漁業 竿釣類 手釣類 延繩釣類
 ハ、雜漁業 貝藻類採取法 海獸類獵法
 ニ、造船運用法 漁船ノ造船及ビ運用術

二、製造科

イ、食用品 乾製品 鹽藏品 燒乾品 鹽乾品 煮乾品 罐詰品 燻製品
 ロ、肥料品 壓搾肥料 化製肥料 混淆肥料
 ハ、工用品 加工品 魚獸油
 ニ、藥用品 肝油 沃度

ホ、製 鹽 入濱法

三、養殖科

人工養殖 池中養殖 海中養殖 活洲養殖

四、理科

水產動物 水產植物

五、海洋

海洋學大意

六、氣象

氣象學大意

七、法規

漁業法 水產會法 漁業取締規則

十四、教授

一、目的 教則ニヨリ生徒ノ將來ト周圍トヲ參酌シ實用ヲ旨トス

二、方法 徹底ト精鍊ト活用ヲ現ハス

三、教科目統一 教科書ノ研究 教授要目ノ作製 教授案ノ作成 生徒ノ成績考查ヲナ

ス

四、施設 校外教授 揭示教授 終業教授 成績品揭示 休業課題 實習

十五、訓練

一、目的 聖旨ヲ貫徹シ自律ノ域ニ到達セシム

二、方法 感化自修ノ形式ヨリ起リ安固タル習慣的基礎ヲ養成シ實踐主義ヲ採ル

三、施設

1、目的ヲ貫徹セシメンタメニ勤勉 忠實 勇氣 儉約 剛健 規律 報恩ノ訓練要
項ヲ定ム

2、始業前訓練要項ニヨリ訓話又ハ時機ニ相當スル訓話ヲナス

3、三大節 入學式 卒業式ニハ教育勅語 戊申詔書 國民精神作興詔書ヲ拜誦ス

4、服裝ハ質素清潔ヲ旨トス

5、訓練的作業 清潔法 標本整理 養殖場ノ經營 實習貯金獎勵

十六、養護

一、目的 身体各部ヲ健全ニ發達セシム

二、方法 欲乏ニ堪ヘ耐久性ニ富ムノ鍛鍊ヲナス

田之濱水產補習學校

三、施 設 身体検査 教室衛生 室外衛生 体育獎勵 飲料水ノ注意
十七、年中行事

四月 入學式 神武天皇祭 教科書供給 年度末調査 身体検査 父兄會 海藻標本作製

五月 海軍記念日 學校一覽表作製 甲種教務會 沿岸教員會 大崎教員會 漁業實習 鯉魚養殖

六月 地久節 帳簿整理 乙種教務會 魚類罐詰製造 養殖

七月 明治天皇祭 標本整理 水泳練習 蝶螺 鮑 採取及ビ製造

八月 夏季休業 天長節

九月 秋季皇靈祭 備品調査 鱈 鯖 ソーダ鯉 罐詰製造 漁業實習

十月 神嘗祭 天長節祝日 拜賀式 賀表捧呈 勅語記念日 戊申詔書記念日 乙種

教務會 煮乾鯉製造

十一月 大崎教員會 沿岸教員會 新嘗祭 國民精神作興詔書記念日 烏賊釣實習

十二月 冬季休業 後期二學年授業開始 釣具類製作實習

一月 四方拜賀式 賀表捧呈 元始 入營兵士見送 編網實習

二月 紀元節拜賀式 賀表捧呈 青年總會 海苔製造 釣具實習

三月 陸軍記念日 春季皇靈 學年末調査 修業式 卒業式 生徒募集 海藻製造

十八、實習製品ノ成績

第八回日本産業博覽會ヨリ一等賞金牌受領

關西勸業共進會ヨリ二等賞銀牌受領

海事水産博覽會ヨリ銅牌受領

愛媛縣重要物産共進會ヨリ銅牌受領

愛媛縣水産共進會ヨリ二等賞受領

愛媛縣南豫五郡共進會ヨリ二等賞受領

其他賞狀多數受領

二六、本校教育一斑 鹿兒島縣薩摩郡東郷女子實業補習學校

一、土地ノ情况

1、位置

薩摩郡ノ北端ニ位シ東北ハ山崎村西北ハ出水郡ニ接シ西ハ下東郷村ニ界シ南ハ川内川ヲ隔テ、平佐村ニ對ス

2、廣袤

東西二里十六町 南北三里十五町 面積三方里

2、地勢

山嶽丘陵ノ起伏甚シク山田川、樋渡川、田海川ノ諸流北方ノ山中ニ發シ南流シテ川内川ニ注グ

河川ノ流域就中川内川附近ハ平野開ケ地味肥沃ニシテ穀類、養蠶、煙草、茶業等ヨリ稜テ産額多シ

4、交通

縣道ハ川内川ニ沿フテ東西ニ通ズ村道、里道村内ヲ縱横ニ通サ、加之川内川ヲ利用シテ運輸ノ便開ケ又近ク川内宮城間ノ鐵道開通ヲ見ルニ至ルベク其ノ利便蓋大ナルモノアラン

5、人口ト戸數

戸數 一六〇七 人口 八七六三

6、産業

米麥粟等ノ普通農作ヲ主トシ養蠶製絲機織、煙草、製茶、木炭業等ヲ副業トス

7、風俗ノ一般

本村ハ船倉町一五〇餘戸ヲ除ク外全部農業ヲ營ミ村民質素淳朴情義ニ原ク勤勉ニシテ經濟的知識ニ富ミ風紀一般ニ良好ナリ

二、學校ノ沿革 (省略)

三、創立以來現在ニ至ル迄ノ生徒成績ノ概要

1、明治四十三年四月三十日福岡縣主催第十三回九州沖繩八縣聯合共進會へ薩摩紉出品

東郷女子實業補習學校

四等賞受領

- 2、大正六年十月十四日第一回出水薩摩兩郡聯合共進會ニ出品織物一等賞受領
 - 3、大五七年十月六日第二回出薩兩郡聯合共進會ニ於テ左記ノ通入選
 - 綿織 一等賞 一點
 - 同 三等賞 一點
 - 同 四等賞 二點
 - 同 綿織 二等賞 一點
 - 同 綿織 三等賞 三點
 - 4、大正十年十月五日大分縣主催第十四回九州沖繩八縣聯合共進會へ出品左ノ銅牌及褒狀ヲ受ク
 - 絹綿交織 三等賞 銅牌 一個
 - 同 四等賞 褒狀 四點
- 其ノ他略ス

附記

イ、綿織物ハ本村船倉町ニ於ケル特約店ヨリ提供スル材料ニ依ツテ實習シ之ヲ製品トシテ特約店ニ入レ該店ハ更ニ川内町市場其他各地方へ販賣輸出ス

ロ、絹綿交織物及絹織物ハ本村又ハ他町村其ノ他ノ人々ヨリ其ノ製作セル材料ノ提供依頼ニ依ツテ織上ゲルモノトス

ハ、本校ノ實習ニ成ル織物ハ技術精巧ニシテ品質佳良ナルヲ以テ到ル所ニ好評ヲ博シ賣レ行き良好ナリ、故ニ一品ト雖未ダ嘗テ賣レ残りタル事ナシ

四、修業年限並ニ各學年各科教授日數及時間

修業年限	教科目	第一學年		第二學年		教授日數
		時日教授數	時每週教授數	時日教授數	時每週教授數	
二年	修身	一	一	四二	一	四二
	國語		四	八四	一	八四
	算術		四	八四	一	八四
	家事	一	一	八四	一	八四
						日每週教授數 年教授日數 二五〇

東郷女子實業補習學校

計	園藝	作法	機縫	裁縫
七		一	五	五
三四	一	一	二二	二二
一四七〇		四二	一一三四	一一三四
		一	五	五
三四	一	一	二二	二二
九〇三		四二	五六七	五六七

附記

- 一、課外トシテ一週一時間乃至二時間唱歌体操ヲ課ス
- 二、教授ハ晝間ニシテ教授ノ始終ハ東郷校ト一致セシム
- 三、農繁休業ハ一年中約二週間別ニ教授ノ季節ヲ特設セズ
- 五、各學年教授要項 (省略)
- 六、職 員 (省略)
- 七、就學ノ情况

1、本校ハ開校以來入學希望者常ニ定員ヲ超過シ隨ツテ生徒ノ就學獎勵ノ上ニハ何等ノ

困難ヲ見ズ出席歩合亦逐年向上シ生徒ハ何レモ學業ニ勵ミツ、アリ
 近來入學希望者俄ニ増加シタルヲ以テ來學年度ヨリハ選抜試驗法ニ依リテ生徒ヲ收容セザルノ止ムナキニ至ラン乎
 2、大正八年度ヨリ大正十三年度ニ至ル六ケ年間ニ於ケル入學志願者入學者數及不採用者ノ情况ヲ示セバ

年 度	入 學 志 願 者	入 學 者	不 採 用 者
大正八年度	五四	三九	一五
大正九年度	六〇	五二	八
大正十年度	六五	六〇	五
大正十一年度	四七	四七	〇
大正十二年度	八六	六八	一八
大正十三年度	五八	五八	〇

附記

本校ハ生徒ノ定員ヲ約九十名トス

東郷女子實業補習學校

生徒ヲ多ク收容シ能ハザルハ設備ノ都合ト職員數ノ少ナキニ依ル

八、學級ノ編制

二學級ニ編制スルモ職員數ノ不足ト教授ノ都合ニ依リ左ノ方法ニ依ル

- 1、一、二學年ヲ別ニスル場合
- 2、各學年ヲ甲乙ニ別チ一、二學年甲組一、二學年乙組トスル場合（現在ハ此ノ方法ニ依ル）

九、生徒ノ職業

全部農業

十、實習ニ關スル施設

- 1、地方ノ實業ト實習科目トノ關係

本村ニハ十年前マデ私設ノ機織工場アリテ一般ノ女子此所ニ學ビ自家日常ノ衣服ハ勿論他人ノ需用モ自ラ織リ自ラ縫ヒ所謂自給自足ノ生活ヲナシ來リシガ私設ノ機織工場廢止サレシカバ之ガ設置ヲ望ムノ父兄漸ク多ク遂ニ村設トシテ創立サレシ所以ニシテ

大正十年度マデニ實ニ三百六十二名ノ卒業著ヲ出スニ至レリ、而シテ之等ノ卒業生ハ多クハ農閑ヲ利用シテ毎年多數ノ反物ヲ織リテ村外ニ輸出シテ所謂川内縞ノ聲價ヲ博シツ、アリ

現今川内市場ニ於テ本校生徒乃至卒業生ノ織リタル製品ノ飛ブガ如ク忽ニシテ賣却サレ然カモ各方面ヨリ製品ノ注文ヲ爭フニ至リシガ如何ニ其ノ製品ノ廉價ニシテ品質ノ良好ナルカヲ證スルニ足ルベシ

2、實習ノ方針

生徒ノ實生活ヲ基礎トシテ總テノ材料ヲ撰擇シ卒業後獨立自營ノ出來得ルヤウ力メテ自發的創作的ニ之ヲ指導シ且勤儉ノ德ヲ養ヒ利用厚生ノ道ヲ教ヘ技術ヲ練磨シ精巧ヲ極メシメントス

3、實習ノ種類

A、機織

東郷女子實業補習學校

4、實習ノ方法		織		縫	
練習方	機	裁方	縫	裁方	縫
小裁單衣物	三ツ身二ツ身	女	丸帶	西洋前掛各種	
ネル地單衣物	衣	女	袴(大中小)(雜形)		
本裁裁	裕物	女	袴(大中小)(全)		
中裁	裁	男	袴(大中小)(全)		
小裁	裁	シ	ヤ		
本裁	裕羽織	女	綿入被布		
全裁	裕羽織	女	綿入被布		
本裁	綿入羽織	男	物(絹布)		
全裁	綿入羽織	男	物(絹)		
一ツ身袖無羽織	物	小	本		
女腹合帶	織	本	比翼		

白	綿	ネ	タ	綿	白	綿
飛	紹	ル	ル	綿	羽	二
仙	縮	紹	斜	一	二	重
臺					絹	絹
平	緞		子	樂	綿	交
					綿	交
					綿	織

B、染色 糸織

直接染料 鹽基性染料 酸性染料 アリガン染料

C、裁縫

中裁	全	本裁	第	一	學	材	年	之	第	二	學	列	年
單衣物	四ツ身	男物	本裁	男單衣物	羽織	(雜形)			本裁	男單衣物	羽織	(雜形)	
			本裁	女單衣物	物	(上仕上)			本裁	女單衣物	物	(上仕上)	

製品批評採點	織 り 方	縞 つ も り	縹 り 張	糊 つ け	染 め 方	縫 ひ 方	普 通 縫 ひ 方	古 着 仕 立 更 へ	補 綴	洗 張	製品批評採點
--------	-------------	------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-----------------------	----------------------------	--------	--------	--------

5、實習ニ關スル特設

一、時間外ノ實習（始業時間及放課後ニ隨意實習）

二、家庭實習

十一、訓育ニ關スル施設

1、訓育ノ方針

圓滿ニシテ健實ナル知情意ノ發達ヲ斯シ誠實勤勉ニシテ自主自律ノ良風ヲ馴致シ且時
代ニ適應セル善良ナル女子タラシメントス

2、訓育ノ方法

イ、教育勅語ノ御趣旨服膺徹底ニ務ム

ロ、朝禮式又ハ講堂訓話等ニ於テ生徒ノ心得偶發事項等ニツキ訓話ヲナス

ハ、常ニ自己ノ行爲ヲ反省セシムルコトニ依リテ自己修養ヲナサシム

ニ、常ニ社會ニ起レル諸種ノ問題、具体的事實行爲ヲ批判セシメ倫理道德上ノ涵養ヲ
ナス

ホ、自治訓練ニ重キヲ置キ自治的作業ニ依リテ共同相愛ノ精神清潔整頓勤勉質素等ノ
良習ヲ馴致ス

ヘ、風俗、習慣ノ改善美風良俗ノ保存等ニ努メシム

ト、常ニ實習材料ノ用法實習ノ方法ハ節約利用ヲ旨トシ以テ經濟思想ヲ涵養セシムル
コトニ努ム

十二、卒業者ノ狀況

創立以來現今ニ至ルマデ卒業者ヲ出スコト三百六十二名嫁シタルモ嫁セザルモ在郷ノ

モノハ各家庭ニ織機ヲ備ヘ小閑ヲ利用シテ機織ヲナシ裁縫ヲ營ミ以テ自家ノ用ヲ辨ジ
或ハ私設工場へ出デテ相當ノ工賃ヲ得ル等村ノ産業經濟上ニ及ボス影響ハ頗ル大ナル
モノアリ故ニ父兄及一般ハ本校ニ對シテ好感ヲ以テ迎ヘツ、アリ

十三、校地校舎教授用具器械圖書標本等特ニ補習教育上必要ナル設備ノ概略

1、校地

イ、面積 一四二、一二坪

ロ、位置

東郷尋常高等小學校ノ西北隅ニアリ北ハ村役場ニ隣リ西ハ廣漠タル平野ヲ望ム敷地
ハ狹隘ナルモ高燥ニシテ水害ノ恐ナシ(本校附近ハ毎年夏秋季ニ至リ降雨ノ爲川
内川汎濫シ船倉町ノ如キ浸水殆ト軒ニ及ブコトアリ)

2、校舎

學科	種別	坪數	種別	坪數
縫室	裁縫室	一八坪	染色室	六坪
計	計	一八坪	計	六坪

種別	坪數	種別	坪數
裁縫室	二〇坪	其他	二坪
機織室	七六坪	計	六坪
計	一四四坪	計	六坪
總坪數	一四四坪		

3、教授用具器械器具圖書標本

イ、教授用具器械

種別	數量	種別	數量
織機	四〇	ハヘ機	三
横卷機	六	絹糸燃機	一
坐繰	一五	絹糸繭用センマイ	一
機附屬品	三〇	染色用具	一〇
鍍	八	あいろん	四
仕上布團	二	鯨尺	二〇
裁縫臺	二五	霧吹	五

火 熨 斗	一	鏡	板	四
シンガミシン臺	一			

六九二

附記

本校ニ普通ノ織機ヲ多ク用シ器械機ヲ備ヘザルハ家庭及ビ地方ノ情況ニ依ルモノニシテ現ニ本村及附近町村ニ於テハ殆ド全部織機ヲ用ユ器械機ヲ用ユルモノナシ。但シ時勢ノ進運ニ伴ヒ器械機普及ノ必要アルヲ以テ本校ニ於テハ來年度ニ於テ一、二臺ヲ設備セントノ計畫中ナリ

イ、標本

織 物 標 本	五 〇	裁 縫 標 本	一 五 〇
---------	-----	---------	-------

ロ、圖書

實用機織法	一	實用染色學	一
小學校裁縫教授の實際	一	新編裁縫教授の實際	一

實用衣類整理法	一	實用家庭顧問	一
増訂衣類整理法	一	其の他略	

附記

圖書欄ニハ僅カニ數冊ヲ舉ゲタルニ過ギズコレ本校職員ハ東郷小學校及東郷圖書館ニ備ヘタル圖書ヲ閱覽スルノ便宜アルヲ以テ別ニ多ク備フルノ必要ナキニ依ル但來學年度ハ相當經費ヲ計上シ新刊書類ヲ購入スル豫定ナリ

十四、學校ト家庭及地方産業トノ關係

1、學校ト家庭

家庭ハ學校ニ信賴シ學校職員ハ常ニ家庭ヲ訪問シ家庭改善ノ指導者ヲ以テ自任シ常ニ連絡ヲ保チ交渉ヲ怠ラズ

2、地方産業トノ關係

本村ハ農村ニシテ千六百餘戸ヲ有シ普通農作ノ傍養蠶ヲ重ナル副業トシ其ノ收購ノ額十四、五萬圓ヲ下ラズ生絲ノ産額亦殆ド之ニ同シ然シテ當業者ノ多クハ自製ノ材料ヲ

東郷女子實業補習學校

六九三

學校ニ送リテ反物ノ織方ヲ依頼シ學校ニ於テハ生徒ヲシテ低廉ナル工賃ヲ受ケテ實習セシム而カモ其ノ數多クシテ殆ド應接ニ苦ムノ情况ナリ

本村ハ製糸工場四ヶ所及私設機械工場二ヶ所アリ之等ノ工場ニ働ク工女ノ多クハ本校卒業生ニシテ本校職員ハ時々該工場ニ臨ミテ督勵指導ヲナシ以テ學校ト卒業生トノ連絡ヲ計リ旁々地方産業ノ發達ニ留意シツ、アリ

斯クノ如ク當地地方ニ於ケル養蠶業勃興發達ハ自然製糸工場ノ隆盛ト各戸製糸ノ發達ヲ促シ其ノ結果ハ又自ラ補習教育ノ普及發展上ニ尠カラヌ影響ヲ受ケ補習教育ノ發展ハ亦地方産業乃至商工業ノ發達ヲナスニ至ル

十五、地方ノ教化並ニ産業上ニ及ボス影響

1、地方ノ教化

本村ハ川内町ニ近キ農村ニシテ自然都會ノ軟風吹キ荒ミ村一般其ノ惡風ニ浸潤サレ易シコト他ノ地方ニ比シテ速カナルヲ免レザルベシト雖女子補習學校創立以來生徒及ビ卒業生ノ受ケタル質素勤勉ノ徳ハ若キ女子ニ良感化ヲ與ヘ且小學校ニ於ケル教育及青

年男女ノ教育ト相俟チテ村内一般ノ風紀刷新サレタルヲ認ム

2、産業上ニ及ボス影響

本村ノ副業タル養蠶製糸ハ直接實業補習學校ノ實習材料供給ト實習上ニ頗ル利便ヲ得生徒ノ學習ハ在學中ハ勿論卒業後家庭及各工場ニ於テ熱心ニ作業スルコトニ依リ自ラ機械業其ノ他産業上ノ隆盛ト發達ヲ來タシ隨ツテ村經濟上ニ及ボス影響多大ナルモノアリ

十七、大正八、九、十ノ三ヶ年間ニ於ケル各年度ノ豫算

科	目	歳		
		大正八年度	大正九年度	大正十年度
授業料補助金製品拂代		一、八五二圓	二、八六〇圓	一、八四〇圓
給料		七二六〇〇〇	一二一四〇〇〇	一五〇〇〇〇〇
雜費		三四六、二〇〇	二七一、九〇〇	一四一、〇六〇
入				
出				

計	生徒獎勵費	修繕費	需要費
二八一四、〇〇〇		一三〇、〇〇〇	一六一二、〇〇〇
四〇四三八、〇〇〇		四五、〇〇〇	二五一二、〇〇〇
三一四九、六六〇		五五、〇〇〇	一四五三、六〇〇

附記

本校ハ本校ノ維持發展ノ爲在籍生徒ヨリ毎月村内在籍生徒ニシ五拾錢村外生徒ヨリ一圓ノ授業ヲ徵集ス

十八、其ノ他特ニ記載スベキ事項

1、在籍生徒ノ出身區域

本校ハ現在九十六名ノ生徒ヲ有ス而シテ中約三分ノ二ハ本村内在籍者ニシテ餘ノ三分ノ一ハ他ノ町村又ハ下宿ヨリ通學ス

今關係町村名ヲ擧グレバ左ノ如シ

- 上東鄉村 下東鄉村 高城村 平佐村 山崎村 樋脇村 宮城町

2、特殊ノ施設

本校ハ毎年夏期休暇ヲ利用シテ全校生徒ニ四乃至五蛾ノ秋蠶ヲ與ヘ各自宅ニ於テ飼育セシメ新學期始ニ當リ成繭ヲ學校ニ持チ寄ラシメ専門家ヲ聘シテ嚴密ナル審査ヲ遂ゲ等級ヲ定メテ褒狀又ハ賞品ヲ授與シ以テ養蠶ニ對スル趣味ヲ養ヒ知能ヲ得セシメ兼テ經濟思想ノ養成ニ努ム

而シテ審査終了後ハ直ニ共同販賣ヲ行ヒ其ノ各自ノ得タル繭代ハ之ヲ學用品等ノ購入又ハ修學旅行費ニ宛テツ、アリ

殊ニ彼等各自ノ得ル金額ハ少クトモ五、六圓多キハ二十餘圓ニ達スルヲ以テ修業旅行費ノ如キハ全ク自己ノ力ニ依ツテ之ヲ辨シ敢テ之ヲ父兄ニ仰グコトナシ

3、將來ノ計畫

イ、校舍ノ改築

現今ノ校舍ハ狹隘ニシテ多數ノ生徒ヲ收容スルニ困難ナルノミナラズ校地モ亦狹隘ニシテ生徒ノ實習運動等ヲナスニ甚不便ナリ即來十二年度ヲ以テ校舍ノ改築移轉ヲ

決行スルコト目下準備中ナリ

ロ、實習ノ設置

農村女子ニ農業ト園藝趣味ヲ涵養シ知能ヲ得セシムルコトハ農村家庭經濟上極メテ緊要ノ事ニ屬ス故ニ本校ハ來學年度ニ二畝歩ノ實習地ヲ設置スル計畫ヲナセリ

ハ、修業年限ノ延長

時勢ノ進運ニ伴ヒ二ヶ年ノ修業年限ニテハ未ダ充分ニ徹底セシムルコトヲ得ザルヲ以テ來學年度ニ一ヶ年ノ研究科ヲ設ケ一層婦德ノ涵養ト技術ノ練磨向上ヲ期セントス

一、生徒ノ増員

校舎ノ増築ヲ同時ニ諸種ノ設備ヲ整へ定員ヲ百名トシ入學生徒數ノ増員ヲナシ以テ入學志願者及父兄ノ要求ヲ滿タシ更ニ時勢ニ伴ヒ漸次其ノ數ヲ増加シ一層補習教育ノ普通徹底ヲ期ス

ホ、將來ノ理想

本校ハ社會教化ノ不心活動ヲ以テ自ラ任ジ本郡乃至本村當局及村民ト互ニ連絡提携シテ以テ益々産業ノ發達ヲ計リ特ニ養蠶製糸ノ普及發達ヲ計リ以テ一層生産ノ額ヲ増シ斯クシテ得タル多クノ材料ニ依リテ愈々機織裁縫ノ實習ヲ盛ニシ技術ヲ練リ製品ヲ精巧ナラシムルト共ニ更ニ其ノ數ヲ増ノ各家庭ノ自製品ト私設工場ノ製品トトモニ之ヲ各方面ニ輸出シ以テ所謂川内編若シクハ川内織トシテ其ノ名ヲ天下ニ博シ然シテ自他互ニ福利ヲ増進センコトヲ期ス

今ヤ本校ノ實績ハ日ヲ追フテ向上シ村當局父兄有志ノ厚キ信頼ト深キ同情トヲ有シ一般モ亦本校教育ノ眞價ヲ認ムルニ至ラレハ最モ意ヲ強ウシテ又喜ビトスル所ナリ

附 錄

一、農林省各種試驗場案内

(一) 農事試驗場

農事試驗場ハ農産ノ増殖改良ニ關スル試驗調査ヲ掌ル本場及二個ノ支場ガアル

東郷女子實業補習學校、附錄

農事試驗場本場

東京府瀧野川町西ヶ原

農事試驗場畿内支場

大阪府南河内郡柏原村

同 陸羽支場

秋田縣大曲町

(二) 園藝試驗場

園藝試驗場ハ園藝ニ關スル試驗調査ヲ掌ル

園藝試驗場

靜岡縣興津町

(三) 畜産試驗場

畜産試驗場ハ牛馬羊豚、家禽、蜜蜂ニ關スル試驗調査ヲ掌ル

畜産試驗場本場

千葉市外都村

(四) 蠶業試驗場

蠶業試驗場ハ養蠶、製糸ニ關スル試驗調査ヲ掌ル

蠶業試驗場本場

東京府下豊多摩郡杉並村

二、道府縣立農事試驗場所在地

北海道農事試驗場

札幌市北二十條西十丁目

樺太廳農事試驗場

樺太豊原郡大富村

東京府農事試驗場

東京府豊多摩郡中野町

京都府農事試驗場

京都上京區下鴨町

神奈川縣農事試驗場

神奈川縣鎌倉郡玉繩村

兵庫縣農事試驗場

兵庫縣明石市

長野縣農事試驗場

長野縣北高來郡北諫早村

新潟縣農事試驗場

新潟縣長岡市今朝日

埼玉縣農事試驗場

埼玉縣北足立郡浦和町

群馬縣農事試驗場

群馬縣前橋市前代田

千葉縣農事試驗場

千葉縣千葉郡都村

奈良縣農事試驗場
三重縣農事試驗場
茨城縣農事試驗場
栃木縣農事試驗場
愛知縣農事試驗場
靜岡縣農事試驗場
山梨縣農事試驗場
滋賀縣農事試驗場
岐阜縣農事試驗場
長野縣農事試驗場
宮城縣農事試驗場
福島縣農事試驗場
岩手縣農事試驗場

奈良市浦坂町
津市西阿漕町
茨城縣東茨城郡酒戶村
宇都宮市今泉町
碧海郡安城町
靜岡縣阿部郡豐田村
甲府市伊勢町
滋賀縣滋賀郡膳所町
岐阜縣稻葉郡加納町
長野縣上水內郡芹田村
宮城縣名取郡岩沼町
福島縣安積郡郡山町
岩手縣岩手郡本宮村

青森縣農事試驗場
山形縣農事試驗場
秋田縣農事試驗場
福井縣農事試驗場
石川縣農事試驗場
富山縣農事試驗場
鳥取縣農事試驗場
島根縣農事試驗場
岡山縣農事試驗場
廣島縣農事試驗場
山口縣農事試驗場
和歌山縣農事試驗場
德島縣農事試驗場

青森縣南津輕郡黒石町
山形市三日町
秋田縣南秋田郡寺田村
福井縣吉田郡圓山西村
石川縣石川郡三馬村
富山縣上新川郡堀川村
鳥取縣岩美郡美保村
島根縣簸川郡壺治村
岡山縣吉備郡高松町
廣島縣加茂郡西條村
山口縣吉敷郡大內村
和山縣海草郡寶村
德島縣名東郡加茂名町

- 香川縣農事試驗場
 - 愛媛縣農事試驗場
 - 高知縣農事試驗場
 - 福岡縣農事試驗場
 - 佐賀縣農事試驗場
 - 熊本縣農事試驗場
 - 宮崎縣農事試驗場
 - 鹿兒島縣農事試驗場
 - 沖繩縣農事試驗場
- 香川縣高松市上ノ市
 - 愛媛縣溫泉郡道後村
 - 高知縣長岡郡長岡村
 - 福岡市大字住吉
 - 佐賀縣佐賀郡神野村
 - 熊本縣飽託郡出水村
 - 宮崎縣宮崎郡大淀町
 - 鹿兒島市上荒田町
 - 沖繩縣國頭郡名護村

三、試驗場拂下規定

(一) 種禽種卵拂下案内書

畜産試驗場

拂下クベキ種禽種卵ノ種類

- 一、單冠褐色レグホーン種
 - 一、黑色ミノルカ
 - 一、横斑ブリマスロワク
 - 一、黑色オービントン種
- 一、單冠白色レグホーン種
 - 一、名古屋種
 - 一、白色ワイヤンドット

出願資格及拂下數量

一、種禽ノ拂下ハ一回ニ付一種類五羽以内ニシテ政府ノ設立シタル學校及農事試驗場道府縣又ハ其設立シタル農學校若ハ農科ノ設ケアル學校、農事試驗場、農事講習所、種畜場及農會又ハ産業組合中央會ノ外拂下ゲス

ニ、種卵ハ何人ニテモ出願ノ順序ニ依リテ生産ノ都度拂下ヲ行フ其拂下數ハ一回ニ付一種類拾顆トス

拂下代價

一、種禽雌雄共壹羽參圓乃至七圓

二、種卵壹組(拾顆)貳圓

拂下手續

- 一、種禽種卵ノ拂下出願書面(一定ノ書式ナシ)又ハ口頭ニテ申込ムベシ
- 二、拂下代金ハ拂下許可通知後收入印紙ニテ納付スルモノトス
- 三、荷造費及運搬費ハ拂受人ノ負擔トシ輸送ヲ引受ケタルモノニ之ヲ支拂フベシ
- 四、出願後一ケ年以内ニ許可通知ヲ受ケサルトギハ出願ハ其効ヲ失フニ付再願スベシ

(二) 種畜拂下及種付案内書

畜産試験場

拂下クベキ種畜

種牛―ホルスタイン種

エーアシヤー種

種豚―ヨークシヤー種

バークシヤー種

種付スベキ種畜

種牛―ホルスタイン種

エーアシヤー種

種豚―バークシヤー種

ヨークシヤー種

種山羊―ザーネン種

拂下及種付制限

- 一、種牛ハ何人ニテモ出願ニヨリ隨時拂下ヲ行フ
- 二、種豚ハ種畜場、農事試験場及府縣農會ニ限り拂下ヲ行フ
- 三、種付ヲ受クル牝牛ニアリテハ年齢二才以上ニシテ身幹四尺以上ナルコト、牝豚ニアリテハ年齢十ヶ月以上、牝羊ニアリテハ年齢滿十八ヶ月以上ニシテ體格優等體質健全惡癖ナキコトヲ要ス

拂下代價及種付料

- 一、種牛ノ拂下代價ハ生後滿一ケ年マデノモノハ一頭ニ付二百五十圓乃至金參百圓トシ滿一ケ年ヲ超ユルモノニアリテハ年齢體格時價等ヲ參酌シテ之ヲ定ム
 - 二、種豚ノ拂下代價ハ生後三ヶ月以内ノモノ牝牡共一頭拾五圓内外トシテ三ヶ月ヲ起ユルモノニアリテハ年齢、體格、時價等ヲ參酌シテ之ヲ定ム
 - 三、種付料ハ牝牛一頭一回ニ付金貳圓牝豚牝山羊ニアリテハ金壹圓
- 第一回ノ種付ニヨリ受胎セサルトキハ牝牛ニ在リテハ第一回種付後六十日以内牝豚牝山羊

羊ニ在リテハ三十日以内ニ限リ無料ニテ第二回ノ種付ヲ行フ
拂下及種付ニ關スル手續要領

一、種畜ノ拂下ハ左記第一號様式同種付ニ在リテハ第二號様式ノ願書ヲ差出スベシ

(第一號様式)

種畜拂下願

一、何種々牡(牝)牛(豚) 頭

右御拂下相成度種畜拂下規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日 住所 職業

氏 名 印

畜産試験場長宛

(第二號様式)

種牡牛(豚)(山羊)種付願

一、何種牝牛(豚)(山羊)何々號

毛 色 生年月日 體 高

産 地 父何種 毛 色 産 地

血 統 母何種 毛 色 産 地

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種々牡牛(豚)ノ種付御許可相成度此段相願候也

年 月 日 住 所

氏 名 印

畜産試験場長宛

(第二號様式)

種牝牛(豚、山羊)種付料納付書

一金 何 圓也 收入印紙

但何種牝牛(豚、山羊)種付料

右納付候也

附 録

年 月 日

住 所

氏

名 印

畜産試験場長宛

三、果樹配布規定

園藝試験場

- 一、園藝試験場ニ於テ生産シタル果樹苗木ハ無償ニテ之ヲ配布ス
- 二、配布スベキ果樹苗木ノ種類、品種及數量ハ毎年十月三十一日マデニ北海道農事試験場長及各府縣農事試験場長之ヲ公示ス配布不能ノ場合亦同シ
- 三、右希望者ハ其ノ府縣農事試験場長ニ毎年十一月三十日マデニ第一號様式ノ願書ヲ提出スベシ
- 四、果樹苗木ノ荷造及ビ運送ニ要スル費用ハ配布ヲ受ケタルモノ、負擔トシ輸送ヲ引受ケタル者ニ之ヲ支拂フベシ
- 五、果樹苗木ノ配布ヲ受ケタル者園藝試験場長ヨリ栽植後ノ狀況ニ關シテ報告ヲ徴セラレ

タルトキハ第二號様式ノ報告ヲ提出スベシ
 第一號様式

果樹苗木配布願

種類	品 種	數 量
一何々	何々	何本
一何々	何々	何本
栽植豫定地	何府縣何郡市何町村	
送 附 先	何府縣何郡市何町村	
着荷驛(港)	何々線何々驛下シ	

(何々港上ゲソレヨリ汽車何々驛下シ)

右御配布相成度果樹苗木配布規定ニ依リ此段相願候也

年 月 日

住 所 職 業

附 録

園藝試驗場長殿

氏

七二

名 印

第二號様式

大正 年 配布

栽培成績報告

栽培者住所氏名

栽培地ノ位置、地形及面積

配布ヲ受ケタル本數

栽植年月

栽植セル本數

栽植後ノ手入

生育狀況

結實始年月

果ノ大小品質

栽植巨離

施肥ノ時期方法種類數量

開花始年月

收量

試作中ノ天災又ハ病虫害

年 月 日

氏

名 印

園藝試驗場長殿

四、農事試驗場依頼分析規定

農林省農事試驗場

- 一、農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲナスベキモノハ大正十一年勅令第二百十四號ニ依リ相當收入印紙ヲ貼附セル別記様式ニ準セル依頼書ニ供試品ヲ添ヘテ差出スベシ
- 二、分析一件毎ニ差出スベキ供試品ノ數量左ノ如シ

土 壤

1KG

販賣肥料

100G

前號以外ノ肥料

1KG

肥料原料

500G

農産物(乾燥セルモノ)

100G

附 録

七三

農産物（乾燥セルモノ） 11KG

農産製造品（液状ナラザルモノ） 二百G

農産製造品（液状ヲナセルモノ） 一立

水（定性分析） 二立

水（定量分析） 五立

三、供試品ハ之ヲ返還セズ但シ分析ノ依頼ニ應ゼザルモノニ就テハ其旨通知ノ日ヨリ二週間似内ニ請求アリタル場合ニ限り供試品ヲ返還ス其費用ハ依頼者ノ負擔トス
（別紙様式）

分析依頼書

收入印紙

一、供試品目

二、生産地名又ハ製造地名

三、生産人又ハ製造人名

四、分析ヲ要スル成分

右定性（又ハ定量）分析依頼致度手数料何圓收入印紙ヲ以テ納付候也

年 月 日 住 所

職 業 氏 名 印

農試験場長殿

五、實業學校教員檢定ニ關スル規程

（大正十一年一月二十四日文部省令第四號）

實業學校教員檢定ニ關スル規程左ノ通定ム

實業學校教員檢定ニ關スル規定

第一條 實業學校教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ實業ニ關スル學科目中ニ就キ之ヲ定メ文部大臣告示ス

第三條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

試験檢定ノ出願期間ハ文部大臣之ヲ告示シ試験施行ノ期日ハ教員檢定委員會長之ヲ公告

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リテハ住所地ノ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ其ノ住所ノ地方廳又ハ當該學校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ

一、第二號書式ノ履歷書

二、受檢資格ニ關スル學校卒業證書、教員免許狀又ハ認可指令ノ寫

三、第五條第一號、第四號、第五號及第九號ニ該當スル者ニ在リテハ第三號書式ノ當該

學校長證明書、同條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ試験檢定合格證明書、

同條第六號ニ該當スル者ニシテ教員免許狀授與地方廳ヲ經由スル場合ニ在リテハ第五

號書式ノ授與地方廳證明書

四、第六號書式ノ醫師法ニ依ル醫師ノ身體檢查書

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一、實業學校又ハ實業補習學校教員養成所ヲ卒業シタル者

二、中學校、高等女學校、高等女學校實科又ハ實科高等女學校ヲ卒業シタル者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

四、專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

五、徵兵令第十三條又ハ文官任用令第六條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル學

校ヲ卒業シタル者

六、小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員又ハ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

七、教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者又ハ本令施行前實業學校教員資格ニ關シ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル者

八、外國ニ於テ實業學校、師範學校、中學校又ハ高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

九、文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得但シ第三號又ハ第四號

ニ該當スル者ハ實習科目ノ檢定ニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

一、相當ノ學歷ヲ有シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ五年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者

二、實業補習學校教員養成所ヲ卒業シ三年以上教諭ノ職ニ在リ且檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者

三、實業學校ヲ卒業シ五年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ニ關スル實地ノ經驗ヲ有シ技術優良ナル者

四、五年以上實地ノ經驗ヲ有シ實業學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受タムトスル學科目ノ實習教授ヲ擔任シ成績優良ナル者

五、第五條第一號乃至第八號ニ該當スル者ニシテ教員無試験檢定ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル學校ヲ卒業シ成績優良ナル者

六、實業専門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ三年以上檢定ヲ受ケムトスル學科目ノ教授ヲ擔任シ成績優良ナル者

第七條 試験檢定ヲ分チテ豫備試験及本試験トス但シ豫備試験ハ便宜之ヲ行ハザルコトアルヘシ豫備試験ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ズ

豫備試験ニ合格シタル者ハ次ノ試験檢定ニ同一學科目ニ就キ出願スル場合ニ限り豫備試験ヲ免ス

第七條ノ二 豫備試験ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ前項試験ノ施行ハ東京府ヲ除クノ外地方長官之ヲ監督ス

本試験ヲ行フヘキ場合ハ教員檢定委員會長ニ於テ之ヲ公告ス

第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ當該檢定ヲ受クルコトヲ得ズ

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

第九條 本令中實業學校ニハ實業補習學校ヲ包含セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號書式(用紙美濃紙)

教員檢定願

收入
印紙

本籍地

現住所

受檢資格

族稱

學科目

氏

名

年月日生

私儀實業學校教員志願ニ付前記學科目ニ就キ(試験、無試験)檢定相受度書類ヲ具シ此
段相願候也

年 月 日

右

文部大臣宛

氏

名 ①

〔記載注意〕

一、族稱ハ華士族ニ限り記載スベシ

二、受檢資格ハ最主要ノ事項ノミヲ記載スヘシ

三、出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書

氏

名

年月日生

學 業

一年月日何學校何科何年ニ入學、年月日卒業

一年月日何教員免許狀、何教員認可指令受領

附 錄

業務

一年月日何官職拜命若ハ何業ニ従事、年月日何事由ニ依リ退官職若ハ廢業

賞罰

一年月日何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク

身上ニ關スル事項

一年月日何事由ニ依リ何ト改氏名等

以上

年月日

右

氏

名 印

(注意事項)

一、學業ハ受験資格ニ關係アル事項ニ限り記載スヘシ

二、卒業證書、教員免許狀、教員認可指令ハ別紙ニ其ノ寫ハ添付スヘシ

三、業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限り記載スヘシ

四、賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限り記載スヘシ

五、身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スヘシ

第三號書式

證明書

本籍

氏

名

年月日生

年月日

何學校長 氏

名 印

(注意)

學科ノ區別ナキ場合ニ在リテハ科名ヲ記載スルニ及ハス

附 錄

第四號書式

證明書

本籍

氏

名

年月日生

右ハ年月日本校ニ於テ施行ノ專問學校入學者檢定ニ合格セシ者ナルコトヲ證明ス

年 月 日

何學校長 氏

名 印

第五號書式

證明書

本籍

氏

名

年月日生

右ハ年月日當廳ニ於テ何教員免許狀ヲ授與セシ者ナルコトヲ證明ス

年 月 日

地方長官 氏

名

第六號書式

(用式美濃紙、記載方ハ別記身體
檢査書記載方心得ニ依ルベシ)

身體檢査書

族籍

何

某

生年月日

一體

格

一身

長

一體

重

一胸

圍

一中

心視力

附 錄

色 盲

眼 病

一聽 力

耳 疾

一呼 吸 器

一神 經 系

一皮 膚

一言 語

一既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年 月 日 検査

住 所

醫 師 何

某 印

(別 記)

身體検査書記載心得

一、検査ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ

一、體格ノ强健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタルヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス

中等ト稱スルハ發育營養共ニ普通ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二二六以上且無病ノ者ヲ指ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共不十分ナルカ或ハ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狭少胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一、中心視力ハスネルソン試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハD/Mト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

色盲ハ其ノ有無若ハ其ノ患アルモノハ何色盲ト記載スヘシ

一、和吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一、神経系ハ中樞若ハ末梢神経ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一、皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一、言語ハ明朗、吃、噎、等ヲ記載スヘシ

一、既往現在ノ疾病又ハ畸形、腦病、肺病、肋膜病、脚氣等ノ疾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

六、實業學校教員檢定ニ關スル規程ニ依ル許可ニ關スル規則

(大正十一年九月十五日文部省令第二十九號)

實業學校教員檢定ニ關スル規程第六條第五號ニ依ル許可ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 實業學校教員檢定ニ關スル規程第六條第五號ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ學校設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ文部大臣ニ申請スヘシ但シ他ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ受ケタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一、教員免許狀ヲ受クヘキ學科目

二、名稱

三、位置

四、學則

五、生徒定員、現在生徒學年及學級別員數

六、卒業生ノ員數(年度別)及卒業後ノ狀況

七、學校長、教員ノ履歷書、受持學科及專任兼任ノ區別ヲ記シタル調書

八、校地、校舎及寄宿舎ノ圖面

九、教科書及參考書目錄

一〇、教授用器具、機械及標本目錄

一一、經費及維持ノ方法

一二、學校財産ノ總額

第二條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第一號乃至第四號、第五號中生徒定員及第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第七號、第九號中教科書及第十一號ノ事項ニ異動生シタルトキハ文部大臣ニ開申スヘシ但シ他ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若ハ認可ヲ受ケタル事項ハ此限ニ在ラス

第三條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テ卒業試験ヲ施行スルトキハ其ノ設立者ニ於テ試験ノ期日ヲ定メ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 文部大臣ハ教員檢定委員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ卒業試験問題及答案ヲ査閲シ試験場ニ參列セシムルコトアルヘシ

前項ノ委員又ハ其ノ他ノ者ニ於テ試験問題又ハ試験ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ又ハ變セシムルコトヲ得

第五條 學校長ハ卒業試験合格者族籍氏名、生年月、各學科目ノ點數數及各學年ニ於テ授

業ヲ受ケタル日數ヲ具シ試験後遲滯ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ書類ヲ具フヘシ

一、其ノ學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復書類

二、學則

三、日課表、各教員受持學科及時間表、教科書配當表

四、職員名簿及履歷書

五、生徒學籍簿

六、學年試験問題及成績表

七、職員出勤簿、生徒毎時出席簿

八、資産原簿、出納簿及經費ノ豫算ニ關スル帳簿

九、圖書、器具、機械標本目錄生徒學籍ニハ生徒ノ旅籍、氏名、住所、生年月、入學前卒業ノ年月日、入學前ノ學歷等ヲ記載スヘシ

附 錄

七三一

第七條 許可ヲ受ケタル學校ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ文部大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

- 一、此ノ規則ニ違背シタルトキ
- 二、教授管理不適當ナルトキ
- 三、維持方法不確實ナルトキ

第八條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

七、實業學校教員檢定試驗問題

(一) 第一回 實業學校教員檢定試驗問題

(大正十一年三月二十八日 豫備試驗ナシ)
東京帝大農學部ニテ施行

○耕種

(午前ノ部)

(三時間)

(志願者百五十三名中
合格者二十三名)

(一) 稻ノ直播ノ得失如何

(二) 左ノ作物ノ性狀ノ大要ヲ記セ

泊芙蘭、除虫菊、マニラヘンプ、カボツク樹、莞、

(三) 左ノ事項ニ就キ記セ

葡萄ノ結果枝ノ習性

蔬菜軟白ノ主ナル方法

(四) 冬花壇トハ如何

(五) 左ノ事項ニツキ知ルトコロヲ記セ

用水量、暗渠排水、流量、干拓、犁

(午後ノ部)

(二時間)

(一) 稻ノ螟虫ノ經過、習性及豫防、驅除ノ方法如何

(二) 紋白蝶ノ幼虫ハ如何ナル形態ヲナシ如何ナル植物ヲ蝕害スルカ、其豫防驅除ノ方法如何

(三) 植物病因ノ大別ヲ問フ

(四) 大麥及小麥ノ麥奴ノ種類及防除法ヲ問フ

◎第二回實業學校教員檢定試驗問題

大正十一年度

(大正十一年十一月十日 豫備試驗ナシ)
東京外國語學校ニテ

○耕種

(午前ノ部)

(一) 作物栽植ノ適當ナル距離ニ關係アル主要ナル事項ニ就テ述ベヨ

(二) 左記農作物ノ性狀ノ大要ヲ記セ

七島蘭、芍藥、ココ椰子、シザルヘンプ、チーゼル

(三) 梨ノ棚作ノ得失如何

(四) 左記園藝作物ノ性狀ノ大要ヲ記セ

棗、柑桔、草石蚕、アーチチヨーク、風信子

(五) 次ノ術語ヲ説明セヨ

一町尺、馬力、揚程、落差

(六) 水田用除草農具ニツキ説明セヨ

(午後ノ部)

(一) 「ウツバヘ」ハ如何ナル昆虫ニシテ如何ナル植物ノ害虫スルヤ、其變態ヲ記載セヨ

(二) 二化螟虫ト三化螟虫トノ區別及越冬ノ場所ヲ示セ

(三) 稻熱病ニ就テ知ル處ヲ記セ

(四) 模範的銹病菌ノ經過ヲ記シ作物銹病ノ一例ヲ舉ゲテ其病狀ヲ記セ

◎農藝化學科

(午前ノ部) (二時間)

(一) 植物体中ノカルシウムノ生理的作用ニ就テ記セ

(二) 本邦ニ於テ自給肥料ノ必要ナル理由ヲ説明セヨ

(三) 次ノモノニ就テ説明セヨ

風成土、ラテライト、アゾトバクテル、吸着作用、酸性腐植質

(午後ノ部) (二時間)

- (一) 牛ノ消化器ヲ通過スル間ニ食物バ如何ニ變化スルカ
- (二) 飴製造中ニ化學的變化ヲ檢スル方法ヲ記セ

○蠶業科

- (一) 蠶ノ化性ニ就テ説明セヨ
- (二) 蠶ノ發育經過ト溫度トノ關係如何
- (三) 眠起ノ取扱ヲ記セ
- (四) 微粒子病ノ特徴ヲ問フ
- (五) 繭ノ糸量解除ニ關シテ知ル所ヲ記セ

(以上二時間)

◎第三回實業學校教員檢定試驗問題

大正十二年度

一、豫備試驗問題

○農業經濟

- (一) 日本農業ト氣候トノ關係ヲ問フ
 - (二) 粗放、集約ノ意義及其利害ヲ述ベヨ
 - (三) 米價ノ變動ヲ來ス理由如何
 - (四) 農業資本ニ對スル評判ノ意義ヲ問フ
 - (五) 資本トシテ土地ノ特性ヲ問フ
 - (六) 農業金融機關ノ種類ヲ略述セヨ
- (以上四時間)

○農藝化學

(午前ノ部)

- (一) 植物体中ニ於ケル炭水化物ノ轉移ニ就テ述ベヨ
 - (二) 土壤ノ養分吸收作用ニ就テ論ゼヨ
 - (三) 重ナル飼料ノ營養價ヲ論ゼヨ
- (以上四時間)

(午後ノ部)

- (四) 澱粉含有原料ヲ利用スル重ナル製造物ノ製法ニツイテ述ベヨ
 - (五) 過磷酸石灰ノ製造及使用方法ヲト述ベヨ
- (以上三時間)

○林業 (午前ノ部)

- (一) 混交林ノ得失
- (二) 苗圃霜除法ノ各種
- (三) 間伐ノ法則
- (四) 我國ニ於テ最モ多ク使用スル用材樹種五種ヲ舉ゲ其工藝的性質ノ大要ヲ記述スベシ
- (五) 木材水運ノ得失ノ要領ヲ記述セヨ (以上三時間)
- (六) 形數ノ意義、種類及其應用
- (七) 法正林ノ要件ヲ説明セヨ
- (八) 治水及水源涵養上森林ノ効用 (以上二時間)

○耕種 (午前ノ部)

- (一) 我國ニ於テ輪作ノ多ク行ハレザル所以ヲ問フ
- (二) 大麥ノ播種期ト播種量トノ關係ニツイテ述ベヨ
- (三) 甘藷ノイモト瓜哇薯ノイモトノ差異ヲ問フ

- (四) 果實生育中破裂ヲナス原因如何
- (五) 石勺柏ノ軟白法ヲ記述セヨ
- (六) 貳萬五千分ノ一縮尺地形圖ニ於テ壹寸四方ノ地アリ其八割ヲ田トス今反當米收量ヲ貳石トスレバ該田ヨリ米ノ總收量幾何ナルヤ (以上四時間)

(午後ノ部)

- (七) 螟虫ノ形態、習性及驅除、豫防法ヲ問フ
 - (八) 蔬菜類ノ最モ普通ナル害虫ノ一種ニ就テ形態、習性及驅除豫防法ヲ記セ
 - (九) 植物病害防除法ノ種類ヲ類別シ、説明セヨ
 - (十) 植物病理學ニ關スル邦文ノ參考書ヲ舉ゲヨ
- 蠶業 (午前ノ部) (以上三時間)
- (一) 普通農家ガ養蠶ヲ經營スル際其ノ採ルベキ方針如何
 - (二) 桑園ノ地肥量ヲ定ムル諸要素ヲ述ベ一ニノ場合ヲ假定シテ適當ナル地肥量ヲ示セ
 - (三) 桑樹紋羽病ノ驅除豫防法ヲ問フ

(四) 蠶ノ呼吸器及順環 系統ヲ述ベ其瓦斯交換作用ヲ説明セヨ

(五) 春蠶期ニ於テ突然ニ來タル高温且ツ多濕ノ天候ガ蠶兒ニ及ボス生理的竝ニ病現的影
響ヲ述ベ之ニ應ズル對策ヲ記セ

(六) 遺傳質ノ純否優劣ノ判定次代鑑定法ノ必要ナル所以ヲ述ベヨ (以上四時間)

(午後ノ部)

(七) 膿病ノ病原如何

(八) 微粒子病ハ毎年顯微鏡ヲ使用シ豫防スルモ末ダ全滅スルニ到ラザリ理由如何

(九) 繭乾燥温度ノ高低ニ就テ其利害ヲ問フ

(十) 黃繭ノ製糸ニ就テ白繭ト異ナレル注意ヲ要スル點ヲ記セ (以上三時間)

二、本試驗問題

○耕 種 (筆記)

(一) 左記ノ繁殖法ノ要旨ヲ説明スベシ

- 1、芽接
- 2、挿接
- 3、分株
- 4、分根

(二) 殺虫劑以外ノモノニヨリ虫害ヲ防グニ如何ナル方法アリヤ
(三) 稻拔器ノ主ナル種類ヲ問フ (以上三時間)

○蠶 業 (筆記)

(一) 糸縷ノ生成及構造ニ就テ記セ

(二) 給桑、食桑、蠶体構成トノ關係ヲ問フ

(三) 雌雄性ハ如何ニシテ決定セラレヤ

(四) 微粒子以外ノ原生動物ニシテ蠶兒ニ有害ナモノアリヤ否ヤ

(五) 「ベテキユロイデス」ハ如何ナル動物ニシテ蠶ニ如何ナル病徴ヲ呈スルヤ

(六) 生糸ノ含有水分及其検査法ニ就テ知ル所ヲ記セ (以上三時間)

○農藝化學 (口述)

(一) PH=7トハ如何ナル意味カ

(二) 石灰室素ノ製法ヲ問フ

(三) アミノ酸、アルカロイド、レシチン、コルテロールニツキテ知ル所ヲ述ベヨ

(四) 殺菌、人口醋ト醱酵醋トノ差ニツキテ述ベヨ

(實驗)

(一) 磷酸一石灰ノ檢出

(二) 天秤ノ使用法

(實物)

減壓蒸溜装置、檢土器、ゲルベルノレチロメーター、●茶、分光器、脂肪鏡檢、バスト
ールコルベーン

○農業經濟 (筆記)

(注意) 第一問第二問第三問ノ三題ト第四問第五問ノ内一題トニ答フベシ

(一) 機械農具ノ可能性ニツイテ論ゼヨ

(二) 大正二年ニ反歩ノ畑地(反當買價百五十圓)ヲ購入シ之ニ桃樹ヲ栽植シタルニ其年中ニ要シタル費用ハ定植費百圓ノ外三十五圓ニシテ大正九年ニハ純費用金五十圓同十年ニハ同四十五圓、十一年ニハ同四十八圓ヲ要シタルニ大正十二年ニハ百十五圓ノ費用ヲ

要シ百八十圓ノ賣上アリタリトイフ然ラバ大正十二年度ニ於ケル桃畑ノ純收益及同年度末ニ於ケル桃樹ノ資本價格ニ對スル利廻幾何
但利子及土地ノ利廻リハ凡テ年五分トシテ計算スベシ

(三) 農業經營上共同作業ノ利害ニ付キテ述ベヨ

(四) チューネンノ孤立國ニ於テ第二圈ニ樹林式ヲ於ケル理由ヲ問フ

(五) 農村ノ實狀ニ最モ適切ナル爲ニハ農業倉庫經營ノ主体ハ何レニ依ルヲ可トスルカ

(以上三時間)

(口述)

(一) 輪載式農業ト輪作トノ區別

(二) 最近ニ於ケル我國内地ノ麥ノ作ハ段別減少ノ原因

(三) 農村問題トハ何ゾ

○林業

(一) 伊豆ノ大島ガ一萬五千尺ノ高サニ隆起シタリト假定シ之ニ生ズル林相及變化並ニ造

林ニ適スル樹種ヲ記載スベシ

(二) 伐木運材上雪ノ利用ヲ説明スベシ

(三) 材木ノ伐期ヲ定ムル方法

(四) 我國現今森林制度ノ大要ヲ説明セヨ

(五) 喬林、中林、矯林ノ特徴並ニ其經濟的得失ヲ述ベヨ

◎第四回 實業學校教員檢定試驗問題

大正十三年度

一、豫備試驗

(大正十三年十月二十八日 各府縣廳ニテ施行)

農業科各科共通

耕種	畜産	蠶業	農藝化學	農業經濟
			豫備試驗問題	

(午前ノ部) (四時間)

(一) 作物輪栽ノ利益ヲ列記セヨ

(二) 小麥ノ性狀ヲ問フ

(三) 桃ノ離核不離核兩種ニツキ各二種ヲ舉ゲヨ

(四) 幼虫期若クハ蛹期ニ於テ驅除スルヲ便利トスル害虫ノ例各二ヲ舉ゲテ説明セヨ

(五) 麥奴屬菌類ノ寄性植物ニ侵入スル經路ニツキ知ル所ヲ記セ

(六) 灌溉ノ利益ヲ問フ

(午後ノ部) (三時間)

(七) 夏秋蠶ノ飼育ニツキ特ニ注意スヘキ點ヲ記セ

(八) 堆肥ノ肥動ニツキ述ベヨ

(九) 農業經營上粗放集約トハ何ゾ其種類ヲ舉ゲテ説明セヨ

(十) 日本ニ於テ飼養セラル、外國種ノ牛馬及鷄各三種ヲ舉ゲテ其用途ヲ記セ

二、本試驗問題

○耕種 (三時間)

- (一) 種ノ種子ヲ播下ニ先チテ浸水スル理由如何
- (二) 干果ニ供スベキ果實ノ通性ヲ問フ
- (三) 桃ノ「チヨツキリ」ノ變能及其果實ヲ害スル有様ヲ説明セヨ
- (四) 土壤消毒法ノ概要ヲ問フ
- (五) 農業ニ於ケル機械力ト畜力トノ長所短所ヲ列記セヨ

○蠶業 (三時間)

- (一) 昆虫ノ變態ニ當リ幼虫器官ハ如何ナル手續ニヨリ成虫器官ニ變成セラル、ヤ
- (二) 近親繁殖ノ利害ヲ述ベソノ因テ來タル理由ヲ説明セヨ
- (三) 給桑方法ヲ異ニスル各種ノ飼育法ヲ比較セヨ
- (四) 空頭病及卒頭病ノ病原ト病徴
- (五) 生糸ノ強力及彈性ニ就テ知ル所ヲ記セ

○畜産 (三時間)

- (一) 血統登録トハ如何又家畜改良ニ對スル關係ヲ述ベヨ
- (二) 家畜飼養上澱粉價ノ意義
- (三) 我國ノ市場ニ販賣セラル、乳製品ヲ列舉シ其用途ヲ附記スベシ
- (四) (イ)和牛ノ特點ヲ述ベヨ
(ロ)本邦ニ於ケル畜牛ノ總頭數並ニ乳牛及ビ役肉牛ノ概數ヲ問フ
- (五) 養豚ノ特點ト養豚經營上考慮スベキ要項
- (六) 鶏ノ人工育雛ノ大要ヲ述ベヨ

八、實業學校教員檢定試驗參考書

(一) 耕種學書

(農業教育研究會)

横井時敬	栽培汎論	五〇	博文館
田中博士	栽培各論	全	全
吉川博士	食用作物各論	三〇〇	成美堂

附錄

七四七

全	工藝作物各論織緯篇	四、八〇	全
池田博士	園藝果樹論	二、五〇	全
柘植教授	果樹園藝新書	二、七〇	全
全	蔬菜園藝新書	二、七〇	全
佐々木博士	果樹害虫篇	一、七〇	全
全	農作物害篇	二、〇〇	敬業社
白井博士	植物病理學	二、二五	秀英社
明峯博士	最新農具論	七五	六監館
上野博士	農業土木教科書	七五	成美堂
本田博士	林業 教化書 測量學	八〇	三浦書店
大屋學士	庭園ノ設計ト施工	七、五〇	裳華房
川瀬博士	土壤學	九五〇	裳華房

(二) 農藝化學參考書 (第一部)

全	肥料學	全	五、五〇	大正十年
澤村博士	農産製造論	成美堂	四、五〇	
岡崎學士	農藝化學實驗	明文堂	五〇	
吉村博士	農用定性分析	有隣堂	二、五〇	
全	農用定量分析	全	四、〇〇	
澤村博士	農業細菌學	明文堂	一、五〇	
伊藤博士	細菌學	成美堂	六、〇〇	
鈴木木博士	細菌研究法及檢索法	丸善	二、〇〇	
湯川教授	製茶論	嵩山堂	一、六〇	
澤村博士	農産製造學	丸山舎	二、七〇	
中尾博士	食品化學	裳華房	五、三〇	
田所博士	食物化學	成美堂	四、五〇	
澤村博士	家畜飼養學	全	三、五〇	

附 錄

澤村博士 動物化學 全 一、二〇
 東京帝國大學農藝化學室 農用化學分析書 第一編 二六〇
 全 第二編 二六〇 農業教育研究會ニテ實費取扱
 醱酵化學研究法 一、六〇
 富田學士 高等農藝化學分析 裳華房六、〇〇

選獎 實業補習學校 施設經營之實際 終

大正十四年十二月十日印刷
 大正十四年十二月十五日發行

不許複製

檢印

選獎實業學校施設經營之實際
 定價四圓貳拾錢

編纂者 帝國農業教育研究會
 茨城縣木原局區尙耕社內
 發行者 帝國農業教育研究會 主事 小松澤德二郎
 名古屋市中區南吳服町二丁目
 印刷者 高橋 鍊五郎
 名古屋市中區南吳服町二丁目
 印刷所 成弘社印刷所
 電話本局四三一七番

發行所 茨城縣木原局區尙耕社內 振替口座東京六八〇貳貳番 帝國農業教育研究會

帝國農業教育研究會主事 小松澤德二郎 著
農藝化學士 久後基一

自給肥料
之新研究

堆肥と緑肥

四六判ポブリン最美装
特價金一圓
送料拾貳錢

本書は空論的机上の産物にあらずして著者が農事の指導教育に
従事すること二十有餘年その間に得たる體驗と研究とを基礎と
して極めて具体的に説述したるものなり、農業教育家産業技術
者諸賢は一書を具へ自給肥料の改良増殖をなし農民生産の増進
を圖り國民糧食の充實を期せられんことを

發賣所 帝國農業教育研究會

272.5
20

終

